

3 章 「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業

3.1 大学の選定と伴走支援への取組

3.1.1 公募の実施

幼児教育の「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すことを目的に、効果的な事業を提案する大学等を公募。有識者検討会による審査を踏まえ、8 件の大学を採択した。公募スケジュールは以下の通り。

表 3-1 公募実施スケジュール

公募期間	2023 年 4 月 28 日（金）～2023 年 5 月 26 日（金）18：00
説明会	2023 年 5 月 16 日（火）
審査期間	2023 年 5 月 29 日（月）～6 月 16 日（金） （6 月 16 日の第一回有識者検討会にて委員承認）
結果通知	2023 年 6 月 16 日（金）

3.1.2 採択された 8 大学の一覧

公募審査により採択された大学は以下の通り。

表 3-2 採択大学一覧（都道府県番号・五十音順）

01	学校法人札幌国際大学（札幌国際大学短期大学部）
02	国立大学法人千葉大学
03	学校法人國學院大學
04	学校法人東京家政学院大学
05	学校法人大阪青山学園（大阪青山大学）
06	学校法人大阪キリスト教学院
07	国立大学法人奈良国立大学機構
08	国立大学法人鳴門教育大学

3.1.3 伴走支援の実施

モデル実証事業については、原則として大学等において実施し、効果検証・取りまとめを行ったが、事業効果の最大化の観点より事務局として、進捗管理、実証視察、成果の報告及び実施にあたっての助言等を行った。

(1) モデル事業キックオフの実施

モデル事業を円滑にスタートさせるため、全大学対象のキックオフ会議及び、大学毎のキックオフミーティングを実施した。キックオフの実施概要は以下の通り。

表 3-3 キックオフ会議

日時	2023 年 8 月 3 日（木） 16：00～17：00
形式	オンライン（zoom）
参加者	文部科学省、採択大学、事務局
議題	(1) 開会・ご挨拶 (2) 各大学の取組内容の共有 (3) 閉会・ご挨拶

表 3-4 キックオフミーティング

日時	学校法人札幌国際大学（札幌国際大学短期大学部） 2023 年 7 月 6 日（木） 国立大学法人千葉大学 2023 年 6 月 28 日（水） 学校法人國學院大學 2023 年 7 月 3 日（月） 学校法人東京家政学院大学 2023 年 7 月 3 日（月） 学校法人大阪青山学園（大阪青山大学） 2023 年 7 月 5 日（水） 学校法人大阪キリスト教学院 2023 年 7 月 5 日（水） 国立大学法人奈良国立大学機構 2023 年 7 月 7 日（金） 国立大学法人鳴門教育大学 2023 年 6 月 29 日（木）
形式	対面（各採択大学）
参加者	各採択大学、事務局
議題	(1) ご挨拶・自己紹介 (2) 本事業の概要 (3) 事業計画内容の説明 (4) 事業計画への質疑・有識者コメント (5) 事業進行の留意点・依頼事項 (6) 質疑

(2) 月次レポートの作成

各採択大学より、毎月の事業の進捗状況を報告いただいた。報告の内容は文部科学省へ共有するとともに、必要に応じて進捗状況や実施内容について、確認・助言を行った。

(3) 中間報告会の実施

モデル事業の進捗状況を報告し、有識者や他の大学と意見を交換することで、より良い事業方針を検討するため、中間報告会を実施した。実施概要は以下の通り。

表 3-5 中間報告会実施概要

日時	2023 年 11 月 9 日（木）9 時 00 分～10 時 4 0 分
形式	オンライン（Zoom）
参加者	文部科学省、有識者、採択大学、事務局
議題	(1) 開会・ご挨拶 (2) 各大学からの中間報告 (3) 閉会・ご挨拶 (4) 事務局からのお知らせ

(4) 最終報告会の実施

モデル事業の取組及び成果を報告し、事業全体の講評を行うため、最終報告会を実施した。実施概要は以下の通り。

表 3-6 最終報告会実施概要

日時	2024 年 2 月 13 日（火）13 時 00 分～14 時 4 0 分
形式	オンライン（Zoom）
参加者	文部科学省、有識者、採択大学、事務局
議題	(1) 開会・ご挨拶 (2) 各大学からの最終報告 (3) 閉会・ご挨拶 (4) 事務局からのお知らせ

3.2 成果の取りまとめ

事業の成果として、中間報告会においては事業開始から 2023 年 9 月末までの取り組み内容を、最終報告会においては 2023 年 10 月から事業完了までの取組内容及びモデル事業全体の成果・課題・今後の展望等について各採択大学より報告いただいた。

各大学の取組は、公募の段階で定めた以下のテーマ・取組に沿って実施した。

表 3-7 取組テーマ一覧

テーマ①：中高生を対象とした職の魅力発信	
取組 A	保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演
	中高生に対する保育体験等の現場体験の機会の提供や、幼児教育の意義等に関する出前授業の実施を通じて、幼児教育や幼稚園教育を担う人材の質的向上の重要性や幼稚園教諭の職の魅力を発信することにより、幼稚園教諭を目指す学生の裾野を広げる。
取組 B	オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談
	オープンキャンパスなど養成校の取組を広く周知できる場を活用して、模擬授業や個別相談等の機会を設けることにより、個々の興味関心に応じた幼児教育に関する理解の醸成を図る。
取組 C	養成校生との交流の機会の設定
	養成校の授業や取組、実際の大学生活などを養成校生から中高生に伝える機会を設け、幼稚園教諭及び養成校に対する興味・関心を高める。

テーマ②：養成校生を対象としたキャリア形成支援	
取組 D	OB／OG などとの交流会
	養成校生が身近にロールモデルを見つけ、幼稚園教諭等への志望度を高められるよう、幼稚園教諭として働く卒業生との交流等を通じて目標とする保育者像の確立を図る。
取組 E	適切な職業紹介事業などの普及啓発
	養成校生が職業活動を実施するにあたり、大学等を介した求人園との適正なマッチングの促進や、優良な職業紹介事業の紹介等を通して、定着率の向上ひいては幼稚園等の安定的な人材の確保に寄与する。
取組 F	周辺幼稚園等からの PR 機会の設定
	養成校生が複数園の教育方針や労働条件、雰囲気等を比較・検討し、納得して就職先を決定できるよう、各園が魅力を発信するための環境整備を図る。
取組 G	幼児教育施設や幼児教育センター等と連携した効果的なカリキュラムの開発
	周辺の幼児教育施設や幼児教育センター等と連携し、養成校生等の資質・能力向上のための効果的なカリキュラムの開発・実践を促進する。
取組 H	複数園での実習の推奨
	養成校生の複数園での教育実習を推奨し、各園における様々な取組を比較することで選択の幅を広げ、自身の希望に見合った園への就職を促進する。

テーマ③：現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援	
取組 I	若手教諭に向けたホームカミングデーの実施
	若手教諭の資質・能力の向上に資する研修のほか、若手教諭と養成校の教授が交流する機会を設け、若手教諭の悩みを共有・相談し、意欲・能力の向上、ひいては教諭の定着率の向上を図る。
取組 J	体系的な現職研修の機会の確保
	現職教諭が教諭としてのキャリアを確立させるために必要な知識・技能を体系的に身に付けられる機会を提供し、定着率の向上及び各教諭の資質・能力の向上を図る。
取組 K	円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施
	実践的な研修を行い、離職・育児休業等で現場を離れた教諭が安心して再び現場に戻るための環境整備を図る。
取組 L	取組 A～K のほか、幼児教育の「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出す観点から、特に効果が見込まれる先導的取組

各採択大学の事業の成果として取りまとめた中間報告・最終報告資料については、次項以降に記載する。

3.2.1 札幌国際大学短期大学部

3.2.1.1 中間報告

01_札幌国際大学短期大学部

【幼児教育の楽しさを感じる直接体験を生み出すキャリア形成支援】

選択したテーマ（01_札幌国際大学短期大学部）

テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信
取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演
取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談
取組C： 養成校生との交流の機会の設定
テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援
取組D： OB／OGなどとの交流会
テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援
取組I： 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施
取組K： 円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施
取組L
取組A～Kのほか、幼児教育の「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出す観点から、特に効果が見込まれる先導的取組

2

実施する各取組の計画・内容（01_札幌国際大学短期大学部）

○実施済み内容

- ◆ 取り組み① 7月、9月のオープンキャンパスで在 student と高校生が交流
模擬授業、本学付属認定こども園見学（A・B・C）
8月～ 在 student が幼稚園教諭にインタビューし、動画を公開（L）
- ◆ 取り組み② 7月 授業科目「キャリア基礎演習」において卒業生と交流（D）
- ◆ 取り組み③ イベント実施（A・C・D・I・K）
“幼児教育直接体験プログラム&わくわくトーク in 札幌国際大学”
10月14日（土）（現職教員、離職者向け）、
10月15日（日）（中高生、現職教員、離職者向け）

3

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（01_札幌国際大学短期大学部）

10月14日土曜日イベントについて

○対象者

現職教員 離職者
保育に興味のある方であればどなたでも

○内容

- ・ お悩み相談・・・現職者の悩み相談を現職教員、大学教員が車座になって語り合う（参加者45名）
- ・ リズムジャンプで脳と身体を鍛えよう
- ・ つるの剛士氏トークショー（参加者約 120名）・・・子育て、保育にかける熱い思いや幼稚園教諭としての奮闘ぶりを語ってくれました

○アンケート結果

どの内容も満足度が高かった。
詳細は分析中



4

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（01_札幌国際大学短期大学部）

10月14日イベントアンケート結果について

- ・ 88%が満足という結果

○感想から

- ・ 仕事をする活力になった
- ・ 保育の楽しさをつるのさんのようにもっと伝えたいと思った
- ・ 子育て、保育についての前向きな話に感銘を受けた
- ・ 保育の魅力をつるのさんの話を通じてあらためて感じた



5

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（01_札幌国際大学短期大学部）

10月15日日曜日イベントについて

○対象者

中高生（34名） 現職教員（10名）
養成校学生（34名）

○内容

- ・ 保育体験（わくわくさん、こどもと一緒に工作）

付属認定こども園園児と中高生、養成校学生とが17のグループになってわくわくさんに指導を受けながら楽しく工作に取り組んだ。

- ・ 中高生と養成校学生とのなかよしランチ

中高生と養成校学生とが一緒にランチを食べながら、将来を語り合った。

- ・ 草木染め体験（玉ねぎの皮で染めたトートバッグ作り）

- ・ リズムジャンプで脳と身体を鍛えよう

中高生、現職教員、養成校学生にとって楽しい活動を通じた交流の場になった。

○アンケート結果

中高生の保育への興味関心は、イベント後に高くなった。詳細は分析中



7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（01_札幌国際大学短期大学部）

10月15日イベントアンケート結果について

事前アンケート 参加者 中学生13名・高校生18名



事後アンケート



今後の予定（01_札幌国際大学短期大学部）

- ◆ 保育者への学生インタビュー 動画編集、順次公開

< 公開中のSNS・大学公式YouTube >

<https://youtube.com/shorts/AUtvSchIHUs?si=ikvJMp8IEmTbYf0Q>

<https://www.youtube.com/shorts/N1Y7WvPCnew>

<https://youtube.com/shorts/VLmgz0oExmk?si=lwMfbHeyTGo6eija>

<https://youtube.com/shorts/U66xuyCeXNU?si=dMZxRrMZfxYMASvE>

< 幼児教育保育学科Instagram >

[https://www.instagram.com/kokusai_yokyo1969/?](https://www.instagram.com/kokusai_yokyo1969/?utm_source=ig_web_button_share_sheet&igshid=OGQ5ZDc2ODk2ZA==)

[utm_source=ig_web_button_share_sheet&igshid=OGQ5ZDc2ODk2ZA==](https://www.instagram.com/kokusai_yokyo1969/?utm_source=ig_web_button_share_sheet&igshid=OGQ5ZDc2ODk2ZA==)

< 幼児教育保育学科TikTok >

[_kokusai_yokyo1969 \(@kokusai_yokyo1969\) | TikTok](https://www.tiktok.com/@kokusai_yokyo1969)

- ◆ 10月開催したイベントのアンケート結果の分析・評価
- ◆ 地域の中高校と幼児教育施設に中間活動報告と今後の活動見通しを報告
- ◆ すべての取り組みについてまとめ、保育職の魅力を伝え人材確保の好循環を生み出すモデル事業を提言する

8

3.2.1.2 最終報告

01_札幌国際大学短期大学部

【幼児教育の楽しさを感じる直接体験を生み出すキャリア形成支援】

1

選択したテーマ（01_札幌国際大学短期大学部）

テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信
取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演
取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談
取組C： 養成校生との交流の機会の設定
テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援
取組D： OB／OGなどとの交流会
テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援
取組I： 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施
取組K： 円滑に現場復帰できるための実践的な研修の実施
取組L
取組A～Kのほか、幼児教育の「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出す観点から、特に効果が見込まれる先導的取組

2

実施した取組（01_札幌国際大学短期大学部）

- 1 オープンキャンパスにおける在学生と高校生の交流、模擬授業、本学認定こども園見学
- 2 「キャリア基礎演習」における卒業生との交流
- 3 SNSで発信☆突撃インタビュー
- 4 幼児教育直接体験プログラム&わくわくトーク
- 5 中学生向け保育体験

3

3

SNSで発信☆突撃インタビュー

L

- 【実施期間】 2023年8月～2024年1月
- 【取組の概要】 学生が保育者にインタビュー、動画撮影
- 【参加者】 学生18名 保育者30名
- 【動画本数】 83本
- ▷ポイント/成果（2024年1月末現在）
- ポイント 学生視点から聞く保育職の魅力を SNSで発信
- ・ TikTok: 再生回数 1 0 0 7 回 未公開分が多くあるので、再生回数の大幅な伸びが期待できる
 - ・ Youtube: 3 2 4 回（プレ公開）
 - ・ Instagram: 幼稚園、こども園からの閲覧、フォローが増加



- ▷課題
- ・ インタビューの際の質問の見本を学生に示したことで、内容が似たようなものになってしまったので、後半は学生に任せたり、園の特色にあった質問を取り入れた
 - ・ 撮影の交渉・承諾→撮影→編集→園の動画チェック→動画公開の多くの工程を学生、教員で行ったので時間がかかってしまった

4

4

幼児教育直接体験プログラム&わくわくトーク

①-A,C
②-D
③-I,K

- 【実施日時】 2023年10月14日、15日
- 【取組の概要】 14日ワークショップ、つるの剛士氏トークショー、15日保育体験（こどもとわくわくさんとの工作）
- 【参加者】 14日 現職教員20名 一般参加者100名
15日 中高生34名 現職教員10名 養成校生34名



▷ポイント/成果

つるの剛士氏トークショーについて

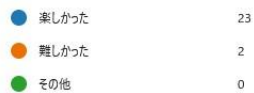
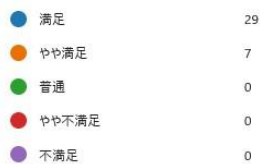
● 満足	32
● やや満足	5
● 普通	0
● やや不満	0
● 不満	0



5

わくわくさんとこどもの工作プログラムの評価

こどもの関わりの評価

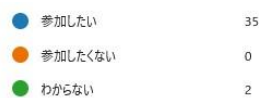
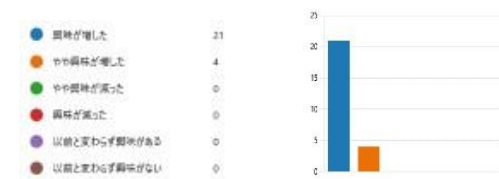


6



中高生 参加前より保育に興味・関心が高まったか

今後もこのようなプログラムに参加したいか



課題

- 参加者アンケートにもあったが「つるの剛士氏トークショー」はもっと多くの人に聞いて欲しかったので、周知に工夫が必要である
- 現職者に対してのワークショップなどは、保育者のニーズを調査するなども必要である

7

【実施日時】 2024年1月27日

【取組の概要】 中高生がこどもと関わる、給食体験

【参加者】 中学生13名、高校生31名、合計44名

▷ポイント/成果

・ポイント

中高生が保育体験を通して
保育に対する興味・関心を高める

・成果

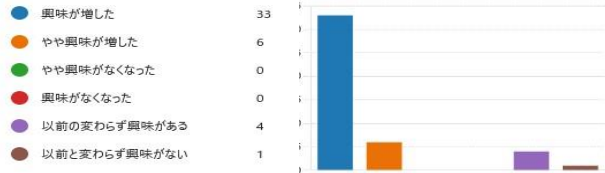
保育職体験（手遊びや子どもとのかかわり
はどうでしたか

● 満足	86%
● やや満足	9%
● 普通	5%



8

今回のイベントに参加して保育への興味・関心に変化はありましたか



興味が増した理由は？

● 実際に子どもと関われたから	29
● 保育学生と関われたから	23
● こども園の施設に興味を持ったから	13
● こども園の先生と関われたから	23
● その他	2



9

今後どのようなイベントを希望しますか

29名の回答があり、ほとんどが今回のような保育体験を希望した。
また、1日保育者体験してみたいという回答もあった。

▷ **良かった点**

- ・ 中高生がこどもとの関わりのきっかけとして手遊びを学生から習い、それを実際にこどもの前で披露できたこと
- ・ こども園の先生への質問コーナーを設けて保育者との関わりも持てたこと

▷ **課題**

- ・ 今回は、直前に大雪が降り交通障害のために来られない参加者もいた。また、感染症が流行っており、土曜日出席の園児が少なかったことから今後は季節や長期休みの平日に開催するなどの工夫が必要である
- ・ 今回のイベントでは、こどもと関わる時間が1時間くらいと短かったので、今後は中高生の長期休みの平日にイベントを開催するなどの工夫が必要である

▷ **まとめ**

- ・ 保育体験の満足度が高く、保育への興味・関心が高まる
- ・ 参加者が今後も保育体験を希望していることから継続的に開催することで保育者志望者の増加が見込まれる

10

2023年7月～2024年1月まで全体を通した振り返り（01_札幌国際大学短期大学部）

**1. オープンキャンパスにおける在学生と高校生の
交流、模擬授業、本学認定こども園見学の振り返り**

① **成果が出て今後も継続したいこと**

- ◆ 在校生と高校生とのかかわり・・・双方に良い影響があるため
- ◆ 付属認定こども園の見学・・・実際に施設を見学することで保育に思いを馳せることができる

② **取組の課題・反省**

- ◆ 模擬授業について・・・高校生が望む模擬授業のリサーチが必要
- ◆ オープンキャンパスのプログラムがマンネリ化している
- ◆ 告知の工夫・・・たとえば、高校へのチラシの配布など

③ **次年度以降に向けて工夫したいこと**

- ◆ 土曜のオープンキャンパスでは、付属認定こども園での保育体験を取り入れる
- ◆ プログラムの見直し

11

2023年7月～2024年1月まで全体を通した振り返り（01_札幌国際大学短期大学部）

2. 「キャリア基礎演習」における卒業生との交流の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- ◆ 先輩保育者の話を聞くことで、保育者を目指す動機づけの強化

②取組の課題・反省

- ◆ 授業が始まってから採択が決まったので、キャリア基礎演習の中での取り組みとしては先輩保育者からの講話のみとなった

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ◆ 実習以外での行事の手伝いボランティアや長期休みのボランティアなどを授業に位置付けることで養成校生と園との関わりを増やす工夫をする

12

2023年7月～2024年1月まで全体を通した振り返り（01_札幌国際大学短期大学部）

3. SNSで発信☆突撃インタビューの振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- ◆ TikTok、Instagramなどでインタビュー動画をあげることで閲覧数やフォロワーが増加したので、今後も継続したい

②取組の課題・反省

- ◆ インタビュー動画作成の工程が多いので、動画をあげるまでに時間がかかる
- ◆ 学生への謝礼や交通費の確保

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ◆ 学生視点での質問ということであったが、保育者からも伝えたいことなども取り入れていくことで、内容をさらに充実させる工夫をする

13

2023年7月～2024年1月まで全体を通した振り返り（01_札幌国際大学短期大学部）

4. 幼児教育直接体験プログラム&わくわくトークの振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- ◆ 幼児教育直接体験・・・中高生の保育への興味・関心が高まった
- ◆ 影響力のある人の講演やプログラム（わくわくさんとの工作など）・・・保育に興味がない人も取り込み、保育に触れる機会となることができる。現職者がワークショップでスキルアップできる
- ◆ わくわくトーク・・・養成校の学生と中高生が話すことが双方に良い影響を与えた

②取組の課題・反省

- ◆ 集客力を高めるために、日程の調整を綿密にする必要がある

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ◆ 周知の方法などの工夫が必要

14

2023年7月～2024年1月まで全体を通した振り返り（01_札幌国際大学短期大学部）

5. 中学生向け保育体験の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- ◆ 中高生の保育体験
- ◆ 養成校の学生から保育について学ぶことを含めた交流
- ◆ 給食体験・・・食育の観点からも成果があった

②取組の課題・反省

- ◆ 土曜日に開催すると参加できるこどもが少ない
- ◆ 冬に開催すると北海道では雪害の影響を受けやすい

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ◆ 開催時期を夏休みや春休みなどの長期休みの平日にするなどの工夫が必要
- ◆ 多くの中高生が集中すると保育現場に負担をかけるので、分散するような工夫が必要

15

3.2.2 千葉大学

3.2.2.1 中間報告

02_国立大学法人 千葉大学

【幼児教育学を核とするハイブリッド・キャリア形成支援事業】



1

選択したテーマ（02_国立大学法人 千葉大学）

テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信

- 取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演
- 取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談
- 取組C： 養成校生との交流の機会の設定

テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援

- 取組D： OB／OGなどとの交流会

テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援

- 取組J： 体系的な現職研修の機会の確保

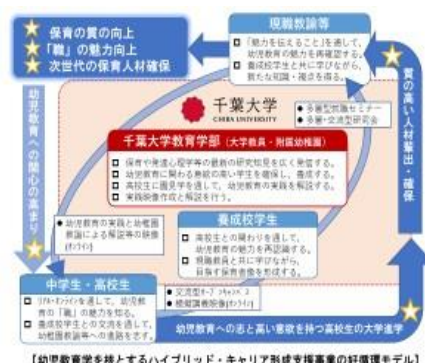
取組L

- 取組A～Kのほか、幼児教育の「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出す観点から、特に効果が見込まれる先導的取組

2

取り組みのポイント：3つのハイブリッドによる好循環の創出

- ① **学問と実践のハイブリッド**：事業の多くを、幼児教育教室と千葉大学教育学部附属幼稚園との協同の下で実施する。幼児教育学等の学問と実践の繋がりを通して幼児教育の魅力に参加者が実感できる。
- ② **取組の対象のハイブリッド**：高校生、養成校学生、現職教諭等が互いに交流し、学び合えるよう実施する。参加者が「一歩先を行くモデル」「未来をつなぐ仲間」として出会い、互いのキャリア観や保育観を豊かにする。
- ③ **オフラインとオンラインのハイブリッド**：特に遠隔地の中高生の学びに配慮し、映像配信等を実施する。全国の中高生が常時幼児教育学の奥深さと幼児教育の繋がりとそれらの魅力を実感できる。



3

取り組み内容

- R5年度に実施予定の取り組みの概要（実施概要がほぼ決定しているもの）

□ 「幼児教育☆サマーセミナー」（「交流型オープンキャンパス」）（B, C）

日時：2023年7月29日（土）1回目 13:00～14:50 2回目 14:30～16:20

場所：千葉大学教育学部附属幼稚園

対象：幼児教育に関心のある高校2・3年生、既卒者 定員80名（各回40名）

内容：教員研究紹介、附属幼稚園紹介、園見学、在校生との交流

実施済

□ 「幼児教育の『今』を語り合おう！一国の動向と保育現場の声ー」（「多層・交流型研究会」）（D, J）

日時：2023年8月26日（土）14:00～16:00

場所：千葉大学教育学部附属幼稚園

対象：保育者養成校に通う学生、現職保育者、幼児教育関係者等 定員80名

内容：第1部 講演：幼児教育をめぐる国の動向 横山真貴子先生（文部科学省 幼児教育課 幼児教育調査官）
第2部 報告とディスカッション：保育現場の声 千葉県内認定こども園園長 2名

実施済

□ 「リトミック」ワークショップ（「多層・交流型研究会」）（D, J）

日時：2023年11月11日（土）13:00～15:00

場所：千葉大学教育学部ダンス場

対象：保育者養成校に通う学生、現職保育者、幼児教育関係者等

内容：リトミック体験・実践例紹介 鈴木香代子先生（千葉大学教育学部特任研究員）

□ 「オペラシアターこんにゃく座」ワークショップ（「多層・交流型研究会」）（D, J）

日時：2023年11月25日（土）1回目 13:00～14:45 2回目 15:30～17:15

場所：千葉大学教育学部附属幼稚園

対象：保育者養成校に通う学生、現職保育者、幼児教育関係者等

内容：オペラシアターこんにゃく座によるワークショップ

オペラシアター
こんにゃく座

4

取り組み内容

- R5年度に実施予定の取り組みの概要（実施概要がほぼ決定しているもの）

□ 「夢ナビ講義 Video」映像作成・夢ナビライブ等（模擬講義映像・オンライン説明会）（A, L）

作成中

実施済

対象：幼児教育に関心を持つ中高校生

内容：「幼児教育の意義」「幼児期の表現」「幼児と造形表現」「インクルーシブ保育」等に関する大学教員の講義



□ 「幼児教育の実践」映像作成（幼児教育の実践と幼稚園教諭による解説等の映像）（A, L）

対象：幼児教育に関心を持つ中高校生、養成校学生

内容：千葉大学教育学部附属幼稚園の実践・園環境、幼稚園教諭による解説



5

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（02_国立大学法人 千葉大学）

□ 「幼児教育☆サマーセミナー」（「交流型オープンキャンパス」）（B, C）

日時：2023年7月29日（土）1回目：13:00～14:50 2回目：14:30～16:20

場所：千葉大学教育学部附属幼稚園

事前申込者：高校生66名（1回目39名、2回目27名）

当日参加者：高校生61名（1回目35名、2回目26名）、学生（在校生）32名

内容：教員研究紹介／附属幼稚園紹介／園見学／在校生との交流

取組の様子：

- ・ 附属幼稚園の中で幼稚園教諭から直接話を聞くことができ、高校生達は熱心に耳を傾けていた
- ・ 園見学では、園庭の挑戦的大型遊具に登るなど、教員、高校生、在校生が共に体を動かしながら、幼児教育の特質や面白さを肌で感じていた
- ・ 高校生と在校生との交流では、打ち解けた雰囲気の中で大学での学びや就職等に関する質問に在校生が答えていた



6

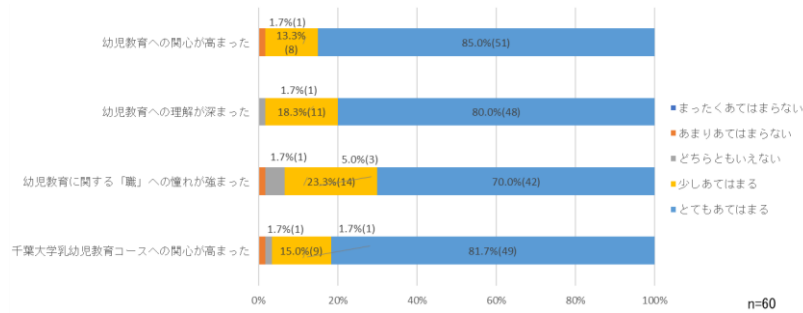
「幼児教育☆サマーセミナー」（「交流型オープンキャンパス」）参加者アンケートの分析

(1) 高校生アンケート 回答者60名（回収率98.3%）

【サマーセミナーの内容に関する感想】

- ・「教員紹介」「附属幼稚園紹介」「附属幼稚園見学」「在校生との交流」のいずれも約80%以上が「とても満足」と回答。「附属幼稚園見学」「在校生との交流」は、約95%が「とても満足」と回答

【サマーセミナーに参加した感想】（図1）



(2) 在校生（保育者養成校学生）アンケート 回答者32名（回収率100%）

【サマーセミナーに参加した感想】

- ・高校生の回答と同様の傾向。「幼児教育に関する『職』をめざす者としての自覚が強まった」は約80%が「とてもあてはまる」と回答

以上から、園見学や高校生と在校生の交流を意図したセミナーは、**高校生と在校生いずれにとって**も幼児教育への理解を深め、かつ「職」への憧れや自覚を強めることに寄与したと言える。

7

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（02_国立大学法人 千葉大学）

口千葉乳幼児教育研究会「幼児教育の『今』を語り合おう一国の動向と保育現場の声」

（「多層・交流型研究会」）（D, J）

日時：2023年8月26日（土）14:00～16:00

場所：千葉大学教育学部附属幼稚園

事前申込者：71名（養成校生・大学院生10，現職保育者44，大学教員14，行政関係者等3）

当日参加者：78名（養成校生・大学院生8，現職保育者46，大学教員18，行政関係者6）

内容：

第1部 講演「幼児教育をめぐる国の動向」

（文部科学省初等中等教育局幼児教育課 幼児教育調査官 横山真貴子先生）

第2部「報告とディスカッション：保育現場の声」

（鴨川市立長狭認定こども園園長 鎌田悦子先生，浦安市立堀江認定こども園園長 高梨智子先生）

取組の様子：

- ・第1部，第2部ともに参加者は熱心に耳を傾けていた。第2部の報告後のディスカッションでは，登壇者も交えてグループ討議が活発に行われた



8

「幼児教育の『今』を語り合おう―国の動向と保育現場の声」（「多層・交流型研究会」） 参加者アンケートの分析

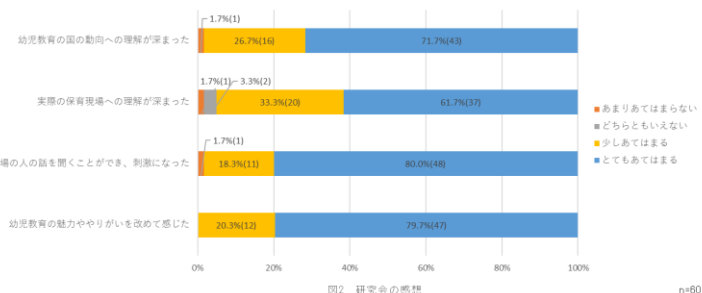
【参加者の立場】

「幼稚園教諭」33.9%、「保育士」24.2%、「大学教員」19.4%、「保育者養成校学生」8.1%、「保育教諭」「大学院生」各4.8%、「行政関係者」1.6%、「その他」3.2%であった。

【研究会の内容に関する感想】

- ・「第1部 講演:幼児教育をめぐる国の動向」「第2部 報告:保育現場の声」「第2部 グループ討議」のいずれも、「とても有意義だった」と「少し有意義だった」を合わせた割合は、ほぼ100%または100%であった

【研究会の感想】（図2）



【養成校学生・大学院生のみに尋ねた研究会の感想】

- ・「幼児教育への理解が深まった」「**幼児教育に関する『職』への憧れが強まった**」「**幼児教育に関する『職』を目指す者としての自覚が強まった**」等いずれも、「少しあてはまる」と「とてもあてはまる」を合わせた割合は、100%であった

以上から、様々な立場の参加者が交流する「多層・交流型研究会」は、**多様な層の参加者との交流から刺激を受けて、幼児教育の魅力ややりがいを再確認することに繋がった**と言える。

9

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（02_国立大学法人 千葉大学）

□「夢ナビ講義Video」映像作成等（模擬講義映像の作成）（A, L）

時期：2023年8～10月

（1）株式会社フロムページ「夢ナビ講義」「夢ナビ講義Video」の作成



（2）「夢ナビライブ2023」（オンライン説明会）開催

日時：2023年10月21日（土）Zoom 30分×2回 千葉大学乳幼児教育コース教員4名
 参加者：全国の高校生 1回目：事前申込者54名、参加者38名 2回目：事前申込者34名、参加者22名
 内容：乳幼児教育コースでの学びの説明とともに、参加者からの質問に回答した。
 実施後アンケート：乳幼児教育コース及び**幼児教育への関心の高まりや理解の深まり**を示す回答が得られた。

10

今後の予定（02_国立大学法人 千葉大学）

□ 「リトミック」ワークショップ（「多層・交流型研究会」）（D、J）

日時：2023年11月11日（土） 13:00～15:00

場所：千葉大学教育学部ダンス場

対象：保育者養成校に通う学生，現職保育者，幼児教育関係者等

内容：リトミック体験・実践例紹介

鈴木香代子先生（千葉大学教育学部特任研究員）



□ 「オペラシアターこんにゃく座」ワークショップ

（「多層・交流型研究会」）（D、J）

日時：2023年11月25日（土） 1回目 13:00～14:45 2回目 15:30～17:15

場所：千葉大学教育学部附属幼稚園

対象：保育者養成校に通う学生，現職保育者，幼児教育関係者等

内容：オペラシアターこんにゃく座によるワークショップ



□ 「幼児教育の実践」映像作成

（幼児教育の実践と幼稚園教諭による解説等の映像）（A、L）

日時：11月下旬に撮影、その後編集し1月下旬完成予定

対象：幼児教育に関心を持つ中高生，養成校学生

内容：千葉大学教育学部附属幼稚園の実践・園環境，幼稚園教諭による解説



11

3.2.2.2 最終報告

02_国立大学法人 千葉大学

【幼児教育学を核とするハイブリッド・キャリア形成支援事業】



1

選択したテーマ（02_国立大学法人 千葉大学）

テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信
取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演
取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談
取組C： 養成校生との交流の機会の設定

テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援
取組D： OB／OGなどとの交流会

テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援
取組J： 体系的な現職研修の機会の確保

取組L
取組A～Kのほか、幼児教育の「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出す観点から、特に効果が見込まれる先導的取組

2

実施した取組（02_国立大学法人 千葉大学）

- 1 幼児教育☆サマーセミナー
- 2 幼児教育の「今」を語り合おう！-国の動向と保育現場の声-
- 3 「夢ナビ講義」映像作成・夢ナビライブ等
- 4 「リトミック」ワークショップ
- 5 「オペラシアターこんにゃく座」ワークショップ
- 6 「幼児教育の実践」映像作成
- 7 「教職・教採対策講座」
- 8 事業成果リーフレット作成

3

【実施日時】2023年11月10日（土） 13:00～15:00

【場所】千葉大学ダンス場

【取組の概要】第1部「リトミック体験」第2部「実践体験」

【講師】千葉大学特任研究員 鈴木香代子

【参加者】20名（養成校学生6、現職保育者12、大学教員2）



▷ポイント/成果

- ・ 養成校学生、現職保育者、大学教員がエクササイズ等で交流しながら楽しく学ぶ姿が見られた。
- ・ 事後アンケートでは、「リトミック体験」と「実践活動例」で、「とても有意義だった」と「少し有意義だった」を合わせた割合が約95%であった。
- ・ 養成校学生の回答では、「幼児教育に関する『職』への憧れが強まった」など、どの項目も、肯定的な回答の割合が80%を超えていた。

▷課題

- ・ 養成校学生や現職保育者が参加しやすい日時の設定。

【実施日時】2023年11月25日（土）

1回目13:00～14:45 2回目15:30～17:15

【場所】千葉大学教育学部附属幼稚園集会室

【取組の概要】こんにゃく体操（からだと心のときほぐし）

「ピノッキオ」のテーマ（萩京子作曲）をもとに歌い合う。

【講師】岡原真弓、入江菜奈、湯田亜希

【参加者】1回目16名（高校生2、養成校学生5、現職保育者6、高校教諭1、大学教員2）

2回目11名（現職保育者6、大学教員5）



▷ポイント/成果

- ・ 様々な立場の参加者が交流して活動し、身体や声で表現したりして気持ちを伝えることの大切さを、グループで交流しながら楽しく学ぶ姿が見られた。
- ・ 事後アンケートでは、それぞれの立場から、型にとらわれずに表現する楽しさと幼児教育における表現活動への示唆を得たことに関する感想が多くみられた。

▷課題

- ・ 高校生、養成校学生、現職保育者等が参加しやすい日時の設定。

6 「幼児教育の実践～千葉大学教育学部附属幼稚園の実践から～」映像作成

①-A

L

【実施期間】

事前打ち合わせ：2023年8月～10月

撮影：2023年11月中旬（2日間）

映像確認・編集等：2023年12月～2024年1月

【撮影・編集】株式会社新宿スタジオ

【撮影協力】 千葉大学教育学部附属幼稚園
千葉大学教育学部幼児教育教室



▷ポイント/成果

- 短い映像の3部構成により、職業教育、養成校授業、研修等に活用しやすいものとなった。
- 1日の流れ、園環境、活動内容とともに各学年の幼児の発達分かる構成とした。
- 幼稚園教諭のインタビューにより、教師の連携、PDCAサイクル等を分かりやすく解説した。

▷課題

- 高校生、養成校学生、現職保育者等の感想等による映像の有効性の検証。

6

7 「教職・教採対策講座」

②-D

【実施期間】 2023年11月～12月

【場所】 千葉大学教育学部

【講師】 幼稚園教員養成課程（現・乳幼児教育コース）卒業生の幼稚園教諭2名、保育士1名

実施日	ゲストスピーカー	内容
11月17日	公立幼稚園教諭 主任	幼稚園教育の動向と課題、幼稚園教員のキャリアと成長
12月5日	公立保育所保育士 9年目	公立保育園の養護・教育の実際と新任保育者の課題
12月8日	公立幼稚園教諭 6年目	公立幼稚園教育の実際と幼保小連携の課題

【参加者】 養成校学生41名（乳幼児教育コース2年生20名、4年生21名）

▷ポイント/成果

- ゲストスピーカーは自身の経験を交えて、幼児教育の魅力とやりがい、保育現場の新任保育者に実際に求められること等を話し、学生からの質問に具体的に答えた。
- 学生の感想には、学生生活と就職後を結び付けて考えることや、保育現場の実際を具体的に知って就職後の不安を軽減できたこと等の内容があった。

▷課題

- 養成校学生の進路選択、就職への準備により効果的なテーマの設定。

7

1. 幼児教育☆サマーセミナーの振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- 附属幼稚園での園見学や附属幼稚園教諭からの説明等を実施したことにより、高校生は幼児教育の具体的なイメージを持つことができた。
- 園庭の挑戦的大型遊具に登るなど、高校生、養成校学生、幼稚園教諭等が共に体を動かしながら幼児教育の特質や面白さを肌で感じていた。
- 高校生と在校生との交流では、打ち解けた雰囲気の中で大学での学びや就職等に関する質問に在校生が答えていた。
- 事後アンケートでは、高校生の「幼児教育に関する『職』への憧れが強まった」で「とてもあてはまる」が約70%、養成校生の「幼児教育に関する『職』をめざす者としての自覚が強まった」で「とてもあてはまる」が約80%であった。
- 幼稚園を会場にした「交流型オープンキャンパス」は、幼児教育への理解を深め、「職」への憧れや自覚を強めることに繋がった。



②取組の課題・反省

- 高校生・既卒者への効果的な周知方法の検討。
- 附属幼稚園の行事等を考慮した日程調整。

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ①を引き継ぎ、②の課題・反省を踏まえて計画を検討する。

8

2. 幼児教育の「今」を語り合おう！-国の動向と保育現場の声の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- 第1部「講演」、第2部「報告とディスカッション」では様々な立場の参加者が熱心に耳を傾け、活発に討議していた。
- 事後アンケートでは、第1部と第2部のいずれも「とても有意義だった」と「少し有意義だった」を合わせた割合がほぼ100%または100%であった。
- 養成校学生・大学院生の回答では、「幼児教育に関する『職』を目指す者としての自覚が強まった」等で、「少しあてはまる」と「とてもあてはまる」を合わせた割合が100%であった。
- 様々な立場の参加者が交流する「多層・交流型研究会」は、幼児教育の魅力ややりがいを再確認することに繋がった。



②取組の課題・反省

- 養成校学生、現職保育者への効果的な周知方法の検討。
- 討議時間に関する感想（「短い」等）を踏まえた時程の検討。



③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ①の成果を引き継ぎ、②の課題・反省を踏まえて計画を検討する。

9

3. 「夢ナビ講義」映像作成・夢ナビライブ等の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ 幼児教育に関する**研究知見を分かりやすく解説**した「夢ナビ講義」「夢ナビ講義Video」を作成した。
- ・ 「夢ナビライブ2023」（オンライン説明会）を開催し、千葉大学乳幼児教育コースでの学びの紹介とともに、高校生から寄せられた質問に答えた。
- ・ 事後アンケートでは、**幼児教育への関心の高まりや理解の深まり**を示す回答が得られた。
- ・ インターネット上での講義映像等の公開、オンライン説明会により、遠隔地を含む**全国の高校生に向けて発信**することができた。



②取組の課題・反省

- ・ 高校生の興味・関心をより踏まえた内容・表現方法の検討。



③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・ ①を引き継ぎ、②の課題・反省を踏まえて計画を検討する。

10

4. 「リトミック」ワークショップの振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ 養成校学生、現職保育者、大学教員がエクササイズ等で**交流しながら楽しく学ぶ姿**が見られた。
- ・ 事後アンケートでは、「**リトミック体験**」と「**実践活動例**」で、「とても有意義だった」と「少し有意義だった」を合わせた割合が**約95%**であった。
- ・ 養成校学生の回答では、「**幼児教育に関する『職』への憧れが強まった**」など、どの項目も、「少しあてはまる」と「とてもあてはまる」を合わせた割合が**80%**を超えていた。
- ・ リトミックに関する「**多層・交流型ワークショップ**」は、養成校学生の幼児教育への理解や憧れ、現職保育者の実践への意欲等に繋がった。



②取組の課題・反省

- ・ 想定より養成校学生の参加者が少なかったこと。
- ・ 養成校学生、現職保育者等が参加しやすい日時の設定。

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・ ①を引き継ぎ、②の課題・反省を踏まえて計画を検討する。

11

2023年7月～2024年1月まで全体を通した振り返り（02_国立大学法人 千葉大学）

5. 「オペラシアターこんにゃく座」ワークショップの振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- 様々な立場の参加者が交流して活動し、身体や声で表現したりして気持ちを伝えることの大切さを、**グループで交流しながら楽しく学ぶ**姿が見られた。
- 事後アンケートでは、それぞれの立場から型にとらわれずに表現する楽しさと、**幼児教育における表現活動への示唆**を得たことに関する感想が多くみられた。
- 「オペラシアターこんにゃく座」による**「多層・交流型ワークショップ」**は、養成校学生の幼児教育に対する理解や憧れ、現職保育者の実践への意欲等に繋がった。



②取組の課題・反省

- 想定より養成校学生の参加者が少なかったこと。
- 高校生、養成校学生、現職保育者等が参加しやすい日時の設定。

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ①を引き継ぎ、②の課題・反省を踏まえて計画を検討する。

12

2023年7月～2024年1月まで全体を通した振り返り（02_国立大学法人 千葉大学）

6. 「幼児教育の実践」映像作成の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- **短い映像の3部構成**により、職業教育、養成校授業、研修等に活用しやすいものとなった。
- 1日の流れ、園環境、活動内容とともに**各学年の幼児の発達**が分かる構成とした。
- **教諭のインタビュー**により、教師の連携、PDCAサイクル等を分かりやすく解説した。



②取組の課題・反省

- 高校生、養成校学生、現職保育者等の感想等による映像の有効性の検証。

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ①を引き継ぎ、②の課題・反省を踏まえて計画を検討する。

13

7. 「教職・教採対策講座」の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ ゲストスピーカーは自身の経験を交えて、**幼児教育の魅力とやりがい**、**保育現場の実際**、**新任保育者に求められること**等を話し、学生からの質問に具体的に答えた。
- ・ 学生の感想には、学生生活と就職後を結び付けて考えることや、保育現場の実際を具体的に知って**就職後の不安を軽減**できたこと等の内容があった。

②取組の課題・反省

- ・ 養成校学生の進路選択、就職への準備により効果的なテーマの設定。

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・ ①を引き継ぎ、②の課題・反省を踏まえて計画を検討する。

14

8. 事業成果リーフレット作成



リーフレット【中高生から養成校生、現職者まで 千葉大学で学び高める幼児教育の「職」の魅力と専門性】

15

3.2.3 國學院大學

3.2.3.1 中間報告

03_國學院大學

【幼児教育のプロフェッショナリズム育成プログラムの開発】

選択したテーマ（03_國學院大學）

テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信

取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演

取組C： 養成校生との交流の機会の設定

テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援

取組D： OB／OGなどとの交流会

テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援

取組I： 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施

2

実施する各取組の計画・内容（03_國學院大學）

テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信

取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演

【高等学校での出張授業】

高校生を対象とし保育職の魅力発信として、
幼児教育の重要性に関する講演を行ったり、高校生に保育職の魅力や
進路選択に役立つ情報提供を行う。

取組C： 養成校生との交流の機会の設定

【オープンキャンパスでの交流】

大学に来校した高校生と養成校生との
交流の場を設ける。

3

テーマ②：養成校生を対象としたキャリア形成支援

取組D：OB／OGなどとの交流会

【OBOGと養成校生との懇談会】
保育職に就いているOB・OGと養成校生との懇談会を開き、養成校生が保育職の実際とその魅力を知り、志望する際の不安を払拭できるようにする。

11月18日（土）開催予定

4

テーマ③：現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成

【OBOGと大学教員との茶話会】
現職教諭を対象としたキャリア形成支援として、保育職に就くOB・OGを対象としたホームカミングデーを実施し、大学教員に気軽に相談出来る茶話会の時間を設ける。

【OBOGを対象とする保育研修】
保育の現代的課題についての研修を設定し、保育効力感を上げ、保育職に係る困難を乗り越えるそれぞれの方法を見出し、保育職への定着を図る仕組みづくりを開発する。

11月18日（土）開催予定

5

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（03_國學院大學）

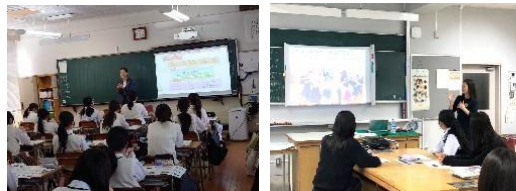
テーマ①：中高生を対象とした職の魅力発信

取組A：保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演

【高等学校での出張授業】

- ①7月13日 國學院高等学校
- ②10月5日 福岡県立行橋高校
- ③10月6日 兵庫県立明石清水高校
- ④10月11日 東京都立豊玉高校
- ⑤10月16日 東京都立広尾高校

※11月以降も継続して出張授業を行う



受講した高校生から、幼児教育や保育への理解が深まり、進路選択の幅が広がったとの声が聞かれ、高校に出向いて授業を行うことは、幼児教育に対する興味を促す良い機会になることが分かった。

< 高校生の感想 >

- ・保育士や幼稚園教諭は、ただ子どもたちを見るだけでなく、成長の手助けをしたり、子どもたちの考え方にも触れられる魅力的な職業であると気づきました
- ・この分野に興味はなかったけど、興味がなかったからこそ、自分の知らないことをたくさん知ることができてとても面白かったです。進路選択の幅も広がる良い機会になりました

6

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（03_國學院大學）

テーマ①：中高生を対象とした職の魅力発信

取組C：養成校生との交流の機会の設定

【オープンキャンパスでの交流】大学に来校した高校生と養成校生との交流の場を設ける。

「オープンキャンパス」で高校生と養成校生との交流を実施

- ・8月5日（土）、6日（日）、26日（土）の3日間でオープンキャンパスを開催
- ・養成校生がキャンパスツアーを実施。授業で使っている保育室やピアノ教室、リトミック室などを回りながら、幼児教育を学ぶ楽しさや魅力について語った
- ・参加した高校生からは、「ピアノができないけれど大丈夫？」「給料が低いので男子は厳しいと言われたのですが、男子学生の進路は？」など、幼稚園等への就職に興味を示す質問が多数あがった
- ・キャンパスツアーとは別に教員の個別相談のブースを設け、大学での学修や進路に関する質問に丁寧に答えながら、幼稚園教諭や保育士の仕事の魅力について説明を行った
- ・幼児教育や保育に進もうか迷っていた高校生も多かったが、養成校生との交流や教員と個別相談をしたことで、教職課程のイメージが明確になり、幼稚園教諭の仕事に対する理解も深まったことで、幼児教育や保育を学びたいという意欲を高める良い機会になることが分かった



7

今後の予定（03_國學院大學）

テーマ②：養成校生を対象としたキャリア形成支援

取組D：OB／OGなどとの交流会

【OBOGと養成校生との懇談会】

テーマ③：現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成

【OBOGと大学教員との茶話会】【OBOGを対象とする保育研修】

以下、開催予定

プログラム

11月18日（土） 10:15～15:00 於：國學院大學たまプラーザキャンパス

10:15-10:30 受付(1403教室)

10:45-12:15 研修(1403教室)

10:45-12:05 保育者研修

講師：國學院大學人間開発学部子ども支援学科助教中野圭祐先生

演題（仮）：「遊びを充実させるための環境構成と保育者の関わり」

12:05-12:15 研修後アンケート調査

12:15-13:05 茶話会(1403教室)

子ども支援学科教員によるOBOGへの保育職についてのヒアリング

13:05-14:35 教育実習1AでのOBOGと養成校生との懇談会(1411教室)

13:05-13:50 現職保育者による講話

講師：港北幼稚園安田奈央教諭

演題（仮）：「幼稚園の一日と保育職の魅力」

13:50-14:35 OBOGと養成校生との小グループの懇談会

14:35-15:00 閉会(1403教室)

8

3.2.3.2 最終報告

03_國學院大學

【幼児教育のプロフェッショナルリズム育成プログラムの開発】

1

選択したテーマ（03_國學院大學）

テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信

取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演

取組C： 養成校生との交流の機会の設定

テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援

取組D： OB／OGなどとの交流会

テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援

取組I： 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施

2

実施した取組（03_國學院大學）

1 オープンキャンパスでの交流

2 高等学校での体験授業

3 OBOGと養成校生との懇談会

4 OBOGを対象とした保育研修・茶話会

5 高校生を対象とした保育職に対する意識調査（ウェブ調査）

6 若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）

3

2

高等学校での体験授業

①-A

【実施期間】 令和5年7月～令和6年1月

【取組の概要】 高校生を対象とした保育職の魅力発信として、本学教員が高等学校へ赴き、幼児教育の重要性に関する講演を行ったり、高校生と養成校生との交流の機会を設けたりし、高校生に保育職の魅力や進路選択に役立つ情報提供を行った。

【受講者】 650名



▷ポイント/成果

- ・ 体験授業を行うことで、子どもや子育てに対する興味・関心が深まり、保育職のイメージにも変化があることが分かった
- ・ 体験授業を通じて保育や幼児教育について学びを深めることで、保育職や保育・幼児教育系の学部学科に対する興味・関心が高まり、進学先として考えたいと思うようになる生徒がいることも分かった

▷課題

今回は、本研究の目的に賛同してくれた高校で体験授業を行ったため、保育や子育てに興味や関心が高く、意欲的な生徒が多かった可能性が考えられたことから、より広く保育職の魅力を発信していくことが課題となった。

4

2

高等学校での体験授業

①-A

体験授業の概要（テーマ/担当講師/実施高等学校一覧）

No.	テーマ	授業講師	実施高等学校名（実施時期）
1	これからの保育・教育を考える	吉永安里	東京都立広尾高等学校（10月）、埼玉県私立本庄第一高等学校（11月）
2	小1プロブレム解消	吉永安里	東京都立広尾高等学校（10月）
3	保育ってなあに？	鈴木みゆき	國學院高等学校（7月）、福岡県立行橋高等学校（10月）、埼玉県立熊谷農業高等学校（1月）
4	食を中心に	鈴木みゆき	兵庫県立明石清水高等学校（10月）、佐賀県私立佐賀女子短大附属佐賀女子高等学校、國學院栃木高等学校（11月）
5	創造的な遊び —つくる・遊ぶ・考える—	島田由紀子	國學院高等学校（7月）、國學院大學久我山高等学校、神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校、富山県立桜井高等学校（11月）、富山県立雄山高等学校（12月）
6	臨床発達心理学からの障害児保育	野澤純子	静岡県私立加藤学園高等学校（11月）、神奈川県私立湘南学院高等学校（11月）、千葉県私立八千代松陰中学・高等学校
7	遊びは学び	青木康太郎	東京都立豊多摩高等学校（10月2回）、神奈川県立厚木東高等学校、東京農業大学第二高等学校（12月）
8	子どもの心理学	結城孝治	國學院高等学校（7月）
9	生涯発達を支える幼児期の教育とは	柳生崇志	國學院高等学校（7月）

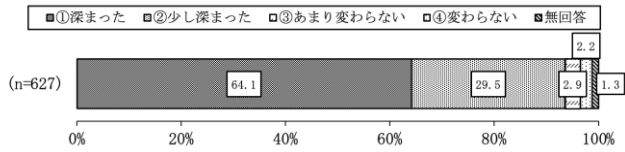
5

2

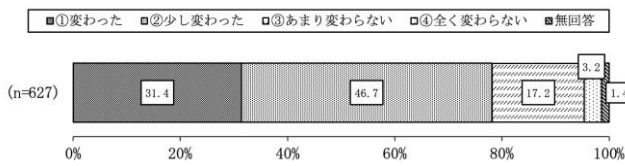
高等学校での体験授業

①-A

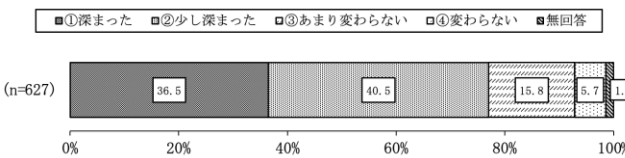
体験授業による子どもや子育てへの興味や関心の深まり



体験授業による保育職に対するイメージの変化



体験授業による保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心の深まり



6

2

高等学校での体験授業

①-A

▷体験授業の主な感想

- 保育は子どもの成長を身近に見ることができ、子どもと接することで自分自身も成長できることを学びました。保育士は、責任の重さを感じることもあるけれど、子どもと接する中で、やりがいを感じられたり、子どもの不思議な考えを見ることができると知りました。今回の講話を聞いて良かったです
- 今回、食についてのお話をしていただいて、子どもの食育の大切さを学ぶことができました。鈴木先生のお話は非常に聞いていて楽しい話ばかりでした。将来、保育士として働く日がくるのなら、子どもたちに食の大切を伝えられたらいいなと思いました
- 新聞紙二枚でこんなに楽しく色々形が変わってできるのは、すごいし、楽しかったです！小さい子でも簡単にできて、やっぱり先生になるには発想が大事なのと、簡単に楽しく作るのが大事だと思いました！



7

3

OBOGと養成校生との懇談会

②-D

【実施日時】 令和5年11月18日（土）

【取組の概要】 養成校生を対象としたOBOGの現職保育者との交流会は、実習前の不安な状況にある養成校生がOBOGの現職保育者と話をすることで、安心して実習を迎え、実習での良い経験に結びつき、その後、保育職を目指すキャリアパスにつなげる目的として行なった。

【参加者】 現職保育者（OBOG）18名、養成校生95名



▷ポイント/成果

- 最初に、幼稚園教諭の卒業生から「子どもの世界や遊びって面白い！—保育職の魅力と実習にむけて」と題し、保育職の魅力等について実践事例を交えながら講話をしてもらい、その後、OBOGと学生が小グループに分かれ、学生からの質問に答えてもらうかたちで懇談会を行った
- OBOGからは保育現場で働く楽しさや喜びとして「子どもの成長を身近に感じることができ、それを共に共感することに喜びを感じる」「子どもたちと毎日笑って過ごす時間があること」などが挙げられた一方、保育職として大変なことや困っていることとしては「事務に追われ、気持ちの余裕がない」「仕事量が多く感じる」「職員数が足りず、休暇が取れない」といったことが挙げられていた

3

OBOGと養成校生との懇談会

②-D

- 懇親会に参加した学生のアンケートの結果（程度を問う設問は4件法で回答）をみると、参加した学生全員が「よかった」と回答し、9割弱の学生は保育職に就きたいという思いが「深まった」と回答していたことから、身近な先輩の話から保育現場の実際を学び、保育の仕事について具体的なイメージを持てるようにすることで、保育職への就職に対する意欲を高めることができるということが分かった

▷懇親会の感想（学生）

- 実際に働いている先輩の話を聞いて、先生になることに対して不安なことがたくさんあったけど、楽しいこともたくさんあるんだなと思えました
- 些細な質問を気軽に質問でき、現場の雰囲気もイメージがしやすくてとても良い時間でした

▷課題

もっとグループ懇談の時間を取ってほしい、実習施設にあったOBOGの話を聞いてみたい、複数の先輩と話がしたいといった意見が挙がったことから、しっかり時間をとり、少人数グループで懇談を行うことが課題となった。

保育職の魅力発信！現職保育者と学生が交流
卒業生が保育実践を報告／國學院大学子ども支援学科

國學院大学は11月18日、卒業した保育者を対象とした「保育職の魅力発信！現職保育者と学生が交流」の交流会を開催した。交流会では、現職保育者から、保育職の魅力や現場での経験などについて、学生に講話をしてもらい、その後、OBOGと学生が小グループに分かれ、学生からの質問に答えてもらうかたちで懇談会を行った。

交流会では、現職保育者から、保育職の魅力や現場での経験などについて、学生に講話をしてもらい、その後、OBOGと学生が小グループに分かれ、学生からの質問に答えてもらうかたちで懇談会を行った。

交流会では、現職保育者から、保育職の魅力や現場での経験などについて、学生に講話をしてもらい、その後、OBOGと学生が小グループに分かれ、学生からの質問に答えてもらうかたちで懇談会を行った。

遊育（'23No22）

現職教諭・離職者等対象の専門家による研修

【実施日時】 令和5年11月18日（土）

【取組の概要】 保育者に求められる高度な知識の学び直しの機会を提供することを目的に、OBOGの現職保育者を対象に研修を行った。

【参加者】 OBOGの現職保育者18名



▷ポイント/成果

- 幼稚園での勤務経験をもつ本学科の中野圭祐助教が「遊びを充実させるための環境構成と保育者の役割」をテーマに、子どもの実態を把握し、ねらいを立て、状況をつくる（環境を構成する）ことを確認するとともに、子どもの育ちを読み取り、そこから環境の構成へ展開させる方法について、保育者自身が今課題と感じていることを聞き取りながら具体的な指導が行われた
- 研修後にアンケート（程度を問う設問は4件法で回答）を実施したところ、94%が「よかった」、5%が「まあよかった」と回答しており、満足度が高かった。また、自由記述から、日々の保育に悩みを感じていても、母校で同窓生とともに研修等を通じて学びを深め、新たな視点を得ることで、明日からの保育に対し前向きな気持ちをもつことができた様子が見えたと

10

▷研修会の感想

- 研修を受けて、保育の面白さや子どもたちの発想の豊かさに改めて気づきました。最近は保育中に余裕がなくなり、丁寧な保育ができていないと反省の日々だったので、また月曜日から心にゆとりをもって子どもたちの楽しい！をいっぱい引き出せるように頑張ります！！
- 日々の保育に置き換えながら聞かせていただきました。共感する部分と来週から取り入れたいと思えるわくわくする部分が多くありました。日々悩むこともあるけれど、保育って面白い楽しいと感じました

▷課題

保育研修の実施にあたっては、OBOGに対してさらにヒアリングなどを行いながら、参加者のニーズに合った研修を企画し、継続して実施していくことが課題となった。



11

茶話会

【実施日時】令和5年11月18日（土）

【取組の概要】OBOGの現職保育者が現在抱えている保育の課題や今後の不安などについて思いを吐露できる機会を設け、保育職を続ける自信やモチベーションを高めることを目的とした。

【参加者】OBOGの現職保育者18名



ポイント/成果

- ・ 研修会後、OBOGと昼食を取りながら、「保育職の大変なこと、困っていること」「保育職で良かったと思うこと」「保育職を続けるために必要な条件」について話を聞いたところ、子どもが好き、保護者の信頼を得ているなど、保育職の魅力に関する話が多かったものの、多岐に渡る職務内容、特別な配慮を必要とする子どもへの配慮の難しさ、職場の人間関係など、保育職の困難さに関する意見も多くなっていた
- ・ 茶話会の感想をみると、7割以上の参加者が「よかった」と答えているなど満足度も高く、同年代の現役保育者と保育に対する悩みや苦労を共有できたことで、気が楽になり、安心できることが窺えた

12

保育職の大変なこと、困っていることは？

- ・ こだわり出したら切りがない、1日24時間では足りない。自分の子どもの保育園の迎えの時間もあり、時間配分やバランスが難しい
- ・ 0歳児の「共食」で、その子のできることできないことを見極めながら、援助していくことが難しく困っている

保育職で良かったと思うことは？

- ・ 子どもたちの楽しい気持ちを一緒に共感したり、子どもたちと一緒に過ごしていて、楽しいなと思うこともたくさんある
- ・ 子どもたちに「先生、大好きだよ」とか言われたり、子どもたちが笑って楽しく遊んでいた姿を見るのは、私自身もすごくうれしいと思う

保育職を続けるために、必要な条件は？

- ・ 「可愛い」とか「成長したな」と子どものことを思えるために、健康な心と体が絶対に必要だなと思う
- ・ 職場のチームワークのことも考えると、ちょっとしたことでも話せるような環境が必要なのかなと思う

13

▷茶話会の感想

- 他のみなさんも同じ悩みを抱えていると分かって安心した
- みなさんの悩みや保育をしていてよかったことを聞いて、自分も頑張ろうという気持ちになりました
- 皆さんの苦労や楽しいことなどを共有でき、同じ保育職としてこのように頑張っている方が沢山いるのだと意識を高めることができました
- 他園の先生方とお話しする機会があまり多くはないので、わかる！わかる！という話ばかりでした！

▷課題

茶話会については、45分しか時間が取れず、小グループでの語り合いの時間も取れなかったことから、もっと気軽に話ができる時間をしっかり設けることが課題となった。



14

【実施期間】 令和6年1月5日(金)～1月9日(火)

【取組の概要】 保育職の魅力向上に資する基礎的情報を得るため、高校生の保育職への興味・関心や保育職に抱くイメージ、将来の就職希望等の実態を把握することを目的にウェブ調査を実施した。

【回答者】 高校生1000人（男子186人、女子785人、無回答29人）

【回答方法】 程度を問う設問は4件法で回答

【主な調査内容】 卒業後の進路、保育職との関わり、保育職に対する意識、保育職の魅力を高める工夫や取組等

▷ポイント/成果

- 保育職は「子どもが好きでないと務まらない」「責任が重い」「賃金が低い」というイメージが強く、保育・幼児教育分野への進学を希望する生徒も少ない状況にあることが分かった
- 保育の仕事に対する興味を尋ねたところ、3割強の高校生が「ある」「少しある」と回答したものの、そのうち、「将来、幼稚園や保育所の先生になりたい」と思っていると回答した高校生は5割弱に留まった。つまり、興味・関心があっても職業にしたいとは思っていない高校生が半数程度いることが分かった

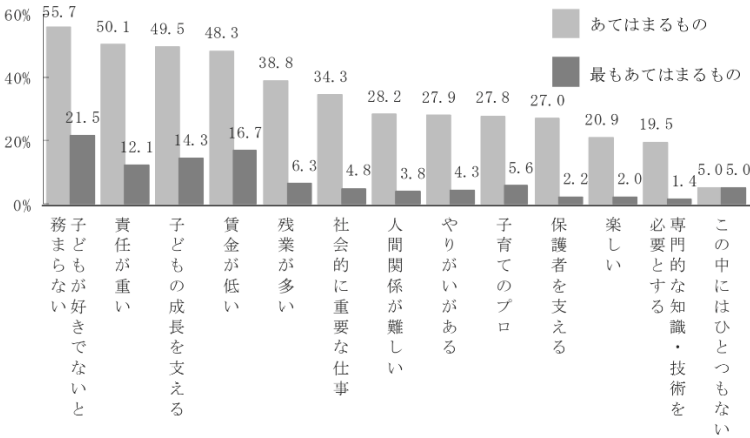
15

5 高校生を対象とした保育職に対する意識調査（ウェブ調査） ③-I

- 「将来、幼稚園や保育所の先生になりたい」と思っている高校生にその理由を尋ねたところ、「子どもが好きだから」「保育の仕事に興味があるから」「人のため、社会貢献できる職業だから」といった回答が多くなり、こうした高校生の思いや考えが、将来、保育者を目指す動機になっていることが分かった
- 保育職に興味がない、幼稚園や保育所の先生になりたいと思わない高校生にその理由を尋ねたところ、「他にやりたい仕事があるから」「子供があまり好きではない／苦手だから」といった意見のほか、「給料がよくなさそうだから」「忙しそうだから」といった仕事の条件面に関するものが挙げられていた。そこで、保育職の魅力を高める改善や工夫について自由記述で尋ねたところ、「給料を上げる」「負担軽減」といった労働条件改善に関するものが多く挙げられていた
- 幼稚園教諭や保育士を目指す生徒を増やすために必要な取組について尋ねたところ、「保育職の処遇改善（給与・職場環境等）」「保育職の社会的地位の向上」「補助金による修学支援」「実習・インターンシップ・職業体験の充実」が挙げられていた。そこで、中学生や高校生に保育職の魅力を伝えるために、国や教育委員会、学校などがどのようなことをすればいいか尋ねたところ、職場体験や実際に働いている人から話を聞く機会、子どもと触れ合う機会など、保育へのタッチポイント増加に関する意見や、労働環境の改善に関する意見が多くみられた

5 高校生を対象とした保育職に対する意識調査（ウェブ調査） ③-I

保育の仕事に対するイメージ



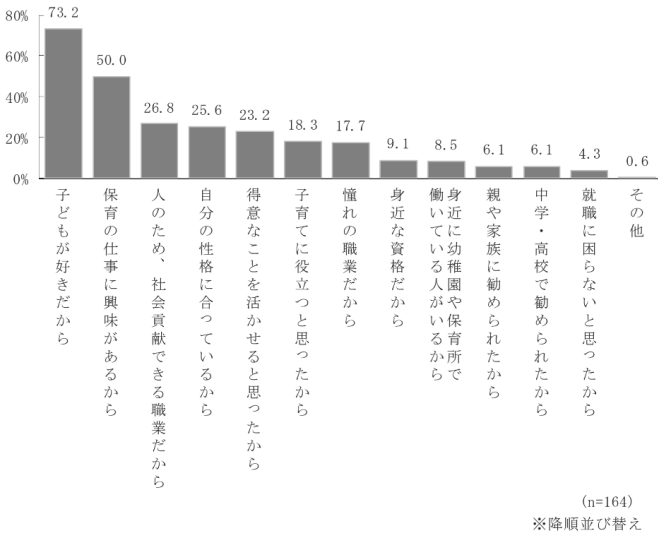
(n=1,000)

※「あてはまるもの」の値を基準に降順並び替え

5 高校生を対象とした保育職に対する意識調査（ウェブ調査）

③-1

幼稚園や保育所の先生になりたいと思う理由（複数回答）

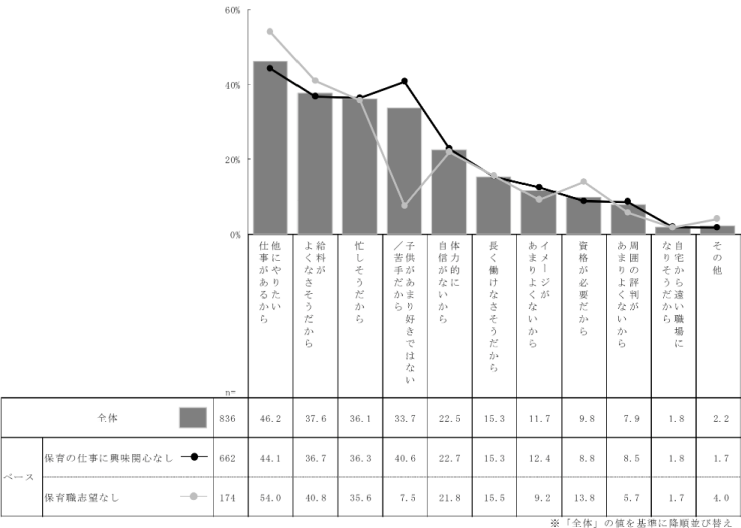


18

5 高校生を対象とした保育職に対する意識調査（ウェブ調査）

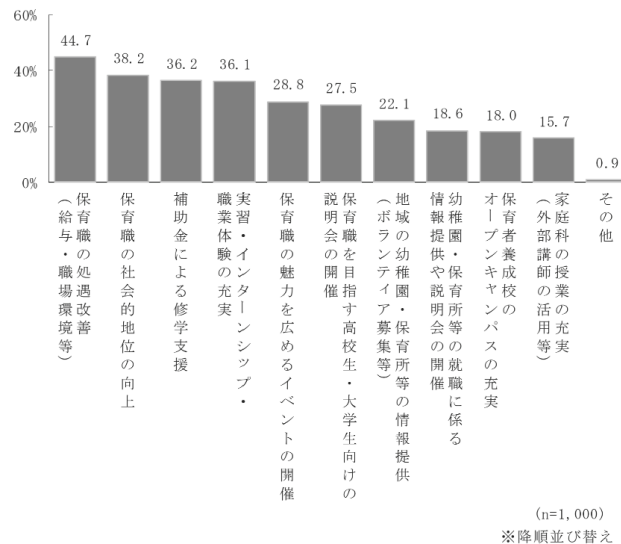
③-1

保育の仕事に興味関心がない／保育職を志望しない理由（複数回答）



19

幼稚園教諭や保育士を目指す生徒を増やすために必要な取組（複数回答）



保育の仕事の魅力を伝えるために国や教育委員会、学校などがすべきことのアイディア

職場体験を増やす

- ・ インターンシップや職場体験などを活用し、生徒本人にやりがいを感じてもらう
- ・ 講演会を行ったり職場体験を1時間などではなく何日間か続けて行ったりする
- ・ 職場体験だけでなく、学生全員が保育の場に関わることが必要

実際に働いている人から話を聞く機会を増やす

- ・ どうして保育士が必要なのかを教えてあげられるような講演会を開く。普段保育士がどんな仕事をしているのか、子供と接している所以以外の仕事も伝える
- ・ 今よりも積極的に保育士さんや幼稚園教諭に来校してもらい、ポジティブなエピソードを話してもらうことで、給料や残業等のネガティブなイメージを少しでも和らげることが大切だと思う

子どもと触れ合う機会を増やす

- ・ もっと小さい子との交流を増やし、どういう仕事なのかなど詳しく広めていくべき
- ・ 学生が保育の仕事と関わる機会を増やすため、近所の保育園や幼稚園と季節ごとのイベントなどを通じて関わる

若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）

【実施期間】 令和6年1月5日(金)～1月10日(火)

【取組の概要】 保育職の魅力向上や早期離職の防止等に資する基礎的情報を得るため、若手幼稚園教諭・保育士等にウェブ調査を実施し、仕事のやりがいや悩み、働きやすい環境、今後の就業の意向等を把握することを目的とした。

【回答者】 若手幼稚園教諭・保育士300人（男子28人、女子269人、無回答3人）

【回答方法】 程度を問う設問は4件法で回答

【主な調査内容】 保育職を選んだ理由やきっかけ、保育職のやりがいや悩み、働きやすい環境づくり、今後の就業の意向、保育職の魅力を高める工夫や取組等

▷ポイント/成果

- ・ 保育職を選んだ理由やきっかけとして「子どもが好きだから」「保育の仕事に興味があるから」「憧れの職業だから」が多く挙げられていたが、3割強の保育者が保育職を選んだきっかけとして「職場体験」を挙げていたことから、保育者を志望するきっかけづくりとして、職場体験は有効な方法の一つであることが示唆された
- ・ 仕事のやりがいを感じる時については、半数以上の保育者が「子どもの成長を感じた時」「子どもの笑顔を見ている時」「保護者から感謝された時」を挙げており、自分自身の成長や達成感に関することより、子どもの成長や笑顔、保護者からの感謝といったことが仕事のやりがいにつながっている傾向にあることが分かった

22

若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）

- ・ 仕事上の悩みや不安、不満については、半数以上の保育者が「仕事内容のわりに給与が低い」を挙げており、「人手が足りない」「子どもの事故への不安（責任の重さ）がある」についても4割以上の保育者が悩みや不安として挙げていた
- ・ 今後の就業の意向については、7割強の保育者が「今後も保育士として働き続けたい」と回答したものの、3割弱の保育者は「今後は保育士を辞め、保育士以外の職種で働きたい」「今後は保育士を辞め、働かないつもりだ」と退職の意向を示した。そこで、退職の理由について尋ねたところ、半数以上の保育者が「給料が安い」と回答していたほか、「仕事量が多い」「他業種への興味」「職場の人間関係」といったことも挙げられていた
- ・ 保育士確保・定着のために必要なこととして、6割以上の保育者が「給与改善」を挙げており、その他、「休暇を取得しやすい環境の整備」「保育士の設置基準（人員配置）の見直し」「業務負担の見直し」といったことも挙げられていた
- ・ 働き続けやすい職場風土・職場環境を作るうえで大切に思うこととして、半数の保育者が「職員間の人間関係が良いこと」を挙げており、その他にも4割以上の保育者が「仕事もプライベートも両方を大切にできる雰囲気が職場内にあること」「有給休暇の取得等の福利厚生に関する制度・体制が整っていること」を挙げていた

23

6 若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）

③-I

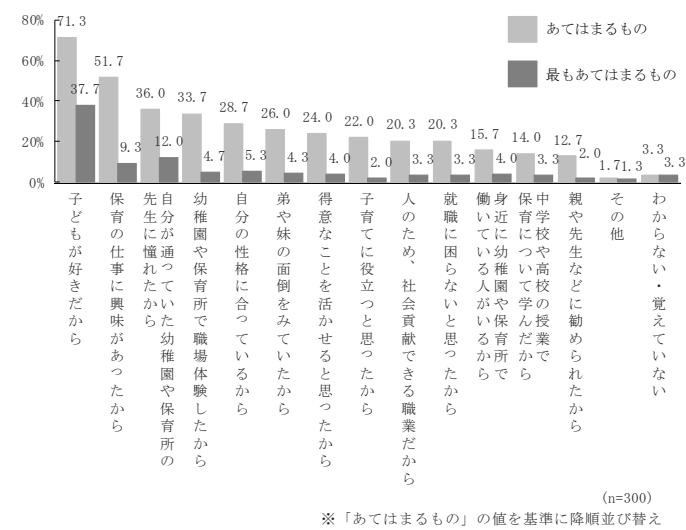
- 夢を叶え、保育職に就いたとしても、「給料が安い」「仕事量が多い」「職場の人間関係」の悩みや不満により、3割弱の若手保育者が退職や転職を考えている状況にあることが分かった。そこで、「仕事上の悩みや不安、不満」と「今後の就業の意向」のクロス集計を行ったところ、「有休休暇が取りにくい」「業務が過剰」「子どもの事故への不安（責任の重さ）がある」といった仕事上の悩みや不安が多い保育者ほど、退職の意向が強くなる傾向にあることが分かった。そのため、若手保育者の早期離職を防ぎ、定着を図るためには、給与や休暇等の処遇や人手不足や休憩時間の少なさといった職場環境の改善が急務の課題であることが分かった
- 今後、学んでみたい・受けてみたいと思う研修の内容について尋ねたところ、4割以上の保育者が「障害児保育」「乳児保育」「保護者支援・子育て支援」を挙げていた。昨今、障害児保育を実施する園や認定こども園に移行する幼稚園が増加するなか、障害児保育や乳児保育に関する知識や経験の不足は、若手保育者にとっては不安や悩みのもとにもなりやすい。3割以上の若手保育者が「自身の保育知識・技術に不安がある」と感じていることから、若手保育者の早期離職を防ぎ、定着を図るためにはニーズに応じた研修の充実も必要である

24

6 若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）

③-I

幼稚園や保育所の先生になりたいと思ったきっかけ



25

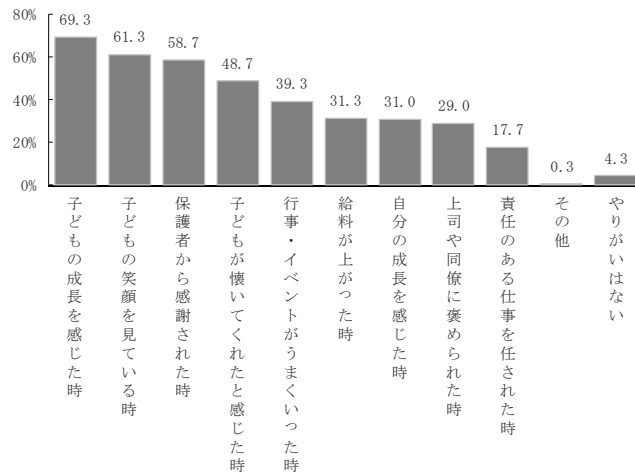
2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果（03_國學院大學）

6

若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）

③-I

保育職にやりがいを感じる時（複数回答）



(n=300)

※降順並び替え

26

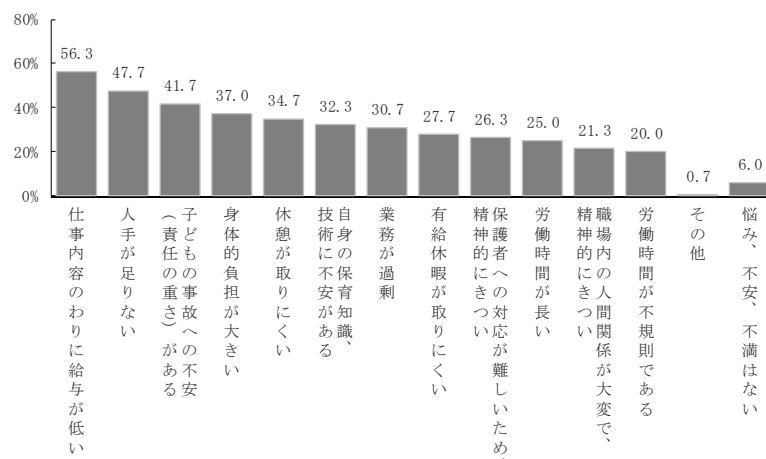
2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果（03_國學院大學）

6

若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）

③-I

仕事上の悩みや不安、不満（複数回答）



(n=300)

※降順並び替え

27

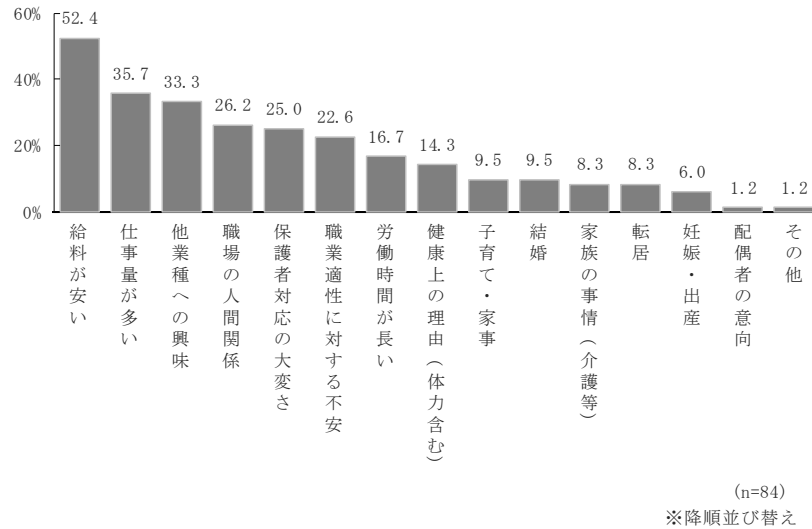
2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果（03_國學院大學）

6

若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）

③-I

退職希望理由（複数回答）



28

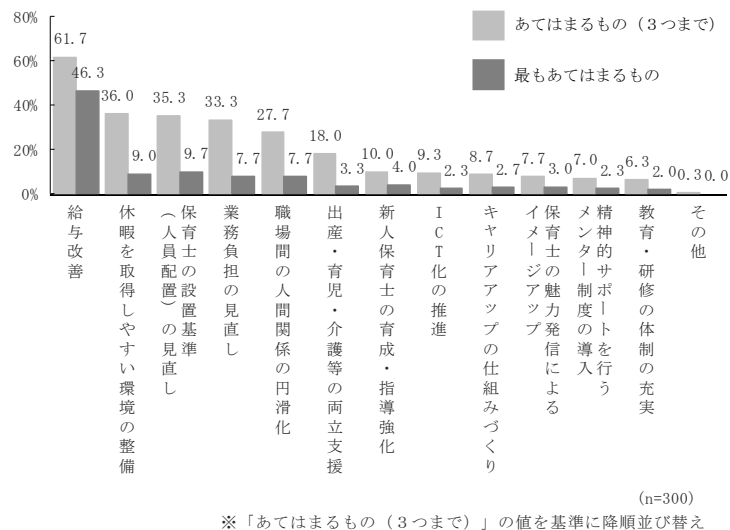
2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果（03_國學院大學）

6

若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）

③-I

保育士確保・定着のために必要と思うこと



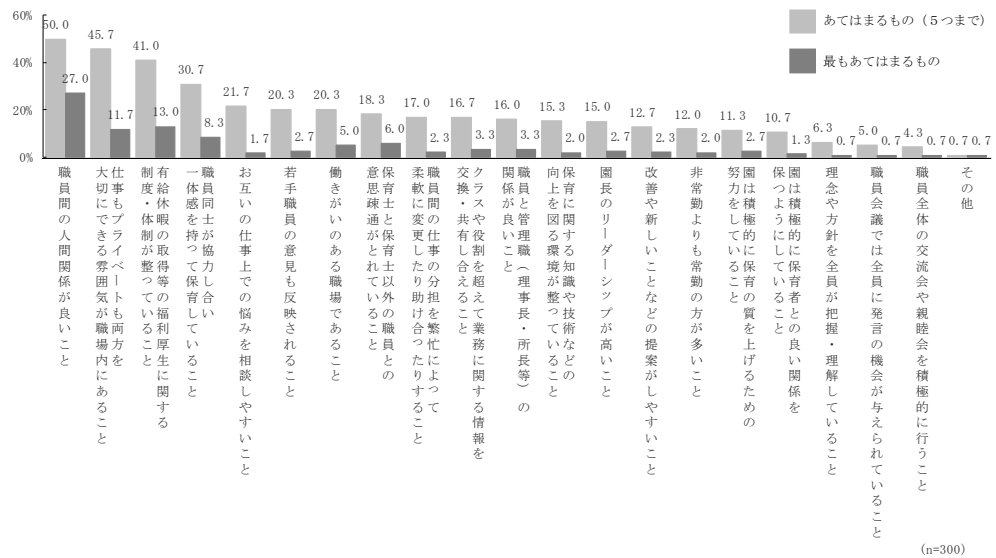
29

2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果（03_國學院大學）

6 若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）

③-I

働き続けやすい職場風土・職場環境を作るうえで大切と思うこと



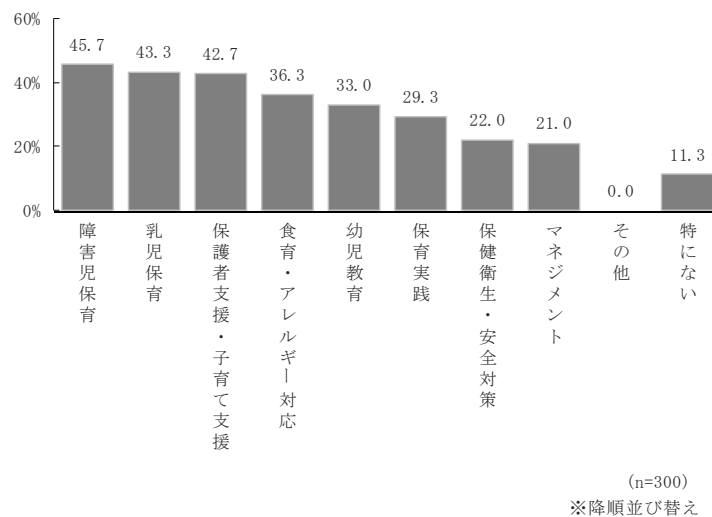
30

2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果（03_國學院大學）

6 若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）

③-I

今後学んでみたい・受けてみたい研修（複数回答）



31

1. オープンキャンパスでの交流の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ 養成校生にとっては、キャンパスツアーをすることで保育者を目指す高校生と触れ合い、保育職を目指す気持ちを思い出し、自身の姿が高校生にとっての憧れの存在となることで、保育職へのキャリアパスをポジティブに捉え直すよい機会となった
- ・ 高校生にとっても、養成校生と話したり説明を受けたりする中で、授業やサークル、入試のことなど、不安を解消することができ、入学後の自分の大学生活のイメージも具体化することができたようである

②取組の課題・反省

- ・ 今回のオープンキャンパスでは、来場した高校生に在校生が書いた「國學院の特色」カードを高校生に配布し、高校生に大変好評であったが、キャンパスツアーに実際に参加した学生は30名程度だったため、もう少し多くの学生に関わってもらうことが課題となった

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・ 今後より多くの養成校生が主体的にキャンパスツアーに参加してくれるよう積極的に呼び掛けを行っていききたい
- ・ 学科教員は学科説明会のみを行ったが、今後は高校生に大学のイメージが一層よく伝わるように、体験授業を行う必要もある

32

2. 高等学校での体験授業の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ 体験授業を通じて保育や幼児教育について学びを深めることで、保育職や保育・幼児教育系の学部学科に対する興味・関心が高まり、進学先として考えたいと思うようになる生徒がいることが分かったことから、将来の保育者の芽を育ていくためには、高大連携の観点から保育・幼児教育に係る体験授業に取り組み、高校生に保育職の魅力を積極的に伝えていくことが大切だと考える

②取組の課題・反省

- ・ 今回は、本研究の目的に賛同してくれた高校で体験授業を行ったため、保育や子育てに興味や関心の高く、意欲的な生徒が多かった可能性が考えられたことから、より広く保育職の魅力を発信していくことが課題となった

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・ 今後は、将来の保育者の芽を育ていくため、高大連携の観点から体験授業に協力してくれる高校の拡大を図り、より多くの高校生に保育や子ども・子育ての魅力について伝えていきたいと考えている

33

3. OBOGと養成校生との懇談会の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ 教員に対して相談しにくい不安や悩みでも、OBOGが学生時代の経験を踏まえて等身大の回答をしてくれたことで、養成校生は大変安心した様子であった
- ・ 保育現場では数の少ない男性保育者が2名（公立保育園勤務）いたことで、男性が保育者としてキャリアを重ね、家庭をもって生活できる経済的にも安定した職であるというイメージをもてたことは大変重要な機会となったと推察される

②取組の課題・反省

- ・ 懇談会のあり方について、学生からもっと長くグループ懇談の時間を取ってほしい、それぞれの実習施設にあったOBOGの話を実習前に聞いてみたい、少人数の話し合いがよかった、複数の先輩と話がしたい、就活前にも話を聞きたいといった意見が挙がったことから、しっかり時間を取り、少人数グループで懇談を行うことが大切であることが分かった

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・ 今後、幼稚園・保育園の各実習指導や就職活動支援において、現職保育者であるOBOGとの交流の機会を積極的に設けていきたいと考えている

34

4. OBOGを対象とした保育研修・茶話会の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ OBOGを対象とした保育研修では、保育職に就いている同窓生とともに母校で研修を受講することで、保育を志そうと決めた学生の頃を思い起こし、懐かしさとともに初心に帰る機会となった
- ・ 茶話会では、同年代の現役保育者と保育に対する悩みや苦勞を共有できたことで、気が楽になり、安心できたことがうかがえた

②取組の課題・反省

- ・ 茶話会については、45分ほどの短い時間しか取れなかったことや小グループでの語り合いができなかったことで、参加したOBOGから、もっとざくばらんに話したかった、教員からの応答が欲しかったという要望が挙がった

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・ OBOGを対象とした保育研修については、今後さらにOBOGにヒアリングを行い、参加者のニーズに合った研修を継続して実施していきたいと考えている
- ・ 茶話会については、小グループでじっくり語り合える時間を確保していく必要があると考えている

35

5. 高校生を対象とした保育職に対する意識調査（ウェブ調査）

①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ 保育者を志望する高校生を増やすには、保育の仕事や子どもとふれ合える体験の機会を提供し、保育の仕事に興味をもってもらったり、自分の得意なことが活かせそうと感じてもらったりするなど、保育の魅力を伝える取組を積極的に行うことが必要であるとともに、保育職のイメージ改善や魅力向上を図るには、保育職の「処遇改善」「社会的地位の向上」が喫緊の課題であることがウェブ調査の結果から分かった

②取組の課題・反省

- ・ 調査結果については、今回は調査会社にモニター登録をしている高校生を対象にしていること、回答者の男女比に偏りがあることなどに留意する必要がある

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・ 職場体験で幼稚園や保育所に行った高校生の9割以上が「よかった」としており、家庭科で受けた保育や子育ての授業についても約7割の高校生が「楽しかった」と思っているにもかかわらず、保育職に就きたいと考えている高校生は少なかったことから、今後は養成校でも中学校や高校での職場体験や授業での保育体験の充実を図るサポートをしていき、その経験と 생각이就職に結びつくよう、保育職の処遇改善を文部科学省やこども家庭庁等に訴えていく必要があると考えている

36

6. 若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）

①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ 仕事にやりがいを感じる時として、半数以上の保育者が「子どもの成長を感じた時」「子どもの笑顔を見ている時」「保護者から感謝された時」を挙げていたことから、自分自身の成長や達成感に関することよりも、子どもの成長や笑顔、保護者からの感謝といったことのほうがやりがいにつながる傾向にあることが分かった
- ・ 夢を叶え、保育職に就いたとしても、「給料が安い」「仕事量が多い」「職場の人間関係」の悩みや不満により、3割弱の若手保育者が退職や転職を考えている状況にあり、若手保育者の早期離職を防ぎ、定着を図るためには、給与や休暇等の処遇や人手不足や休憩時間の少なさといった職場環境の改善が急務の課題であることが分かった

②取組の課題・反省

- ・ 調査結果については、今回は調査会社にモニター登録をしている若手保育者を対象にしていること、回答者の男女比に偏りがあることなどに留意する必要がある

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・ 3割以上の若手保育者が「自身の保育知識・技術に不安がある」と感じていることから、若手保育者の早期離職を防ぎ、定着を図るために、障害児保育、乳児保育、子育て支援など、ニーズに応じた保育研修を行っていきたいと考えている

37

3.2.4 東京家政学院大学

3.2.4.1 中間報告

04_東京家政学院大学

【地域連携を基盤とした幼児教育人材育成拠点としての養成校モデルの創出】

1

選択したテーマ（04_東京家政学院大学）

テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信

- 取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演
- 取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談
- 取組C： 養成校生との交流の機会の設定

テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援

- 取組D： OB／OGなどとの交流会
- 取組E： 適切な職業紹介事業などの普及啓発
- 取組F： 周辺幼稚園等からのPR機会の設定
- 取組H： 複数園での実習の推奨

テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援

- 取組I： 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施

取組L

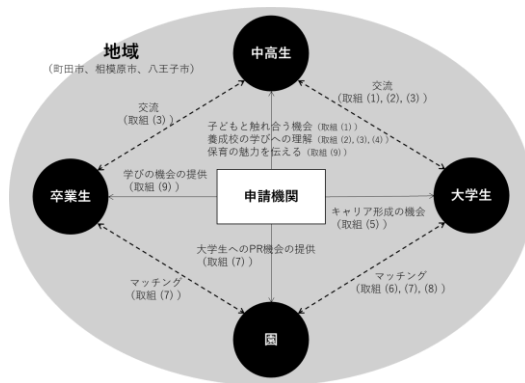
- 取組A～Kのほか、幼児教育の「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出す観点から、特に効果が見込まれる先導的取組

2

1. 実施計画の全体像

事業目標

地域人材育成の拠点としての機能を強化し、相模原市、町田市、八王子市との連携を強め、地域における人材の循環を促進する。



各取組の関係性と好循環のイメージ

取組一覧

- **中高生を対象とした職の魅力発信**
 1. 地域の子ども向けイベントへの中高生参加の機会提供 【A、C】
 2. 併設中高での出前授業の実施 【A】
 3. オープンキャンパス等における保育展示、体験コーナーの設置 【B、C】
 4. 近隣地域にある協定高校への体験授業の提供 【B】
- **養成校生を対象としたキャリア形成支援**
 5. 就職懇談会での卒業生との交流機会 【D】
 6. 就職活動における適正なマッチング機会 【E】
 7. 近隣地域幼稚園のPR機会 【F】
 8. 実習園に関する適正なマッチング機会を提供 【H】
- **現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援**
 9. ホームカミングデーにて卒業生同士そして養成校教員と交流する機会 【I】
- **その他**
 10. 近隣自治体および園と共同で「職」の魅力伝える動画を制作 【L】

2. 中高生を対象とした職の魅力発信

1. **地域の子ども向けイベントへの中高生参加の機会提供 【A、C】**

「子ども体験塾 2023」で、近隣地域の子ども達に対し、大学生が中心となり、様々な体験教室を提供する。当該イベントに近隣地域の中高校生の参加者を募り、養成校生とともに子どもと触れ合う体験の機会を提供する。
2. **併設中高での出前授業の実施 【A】**

本学の併設中学校、高等学校にて、キャリア教育の一環として幼児教育の意義等に関する出前授業を実施し、養成校での学びや幼児教育を担う人材の質的向上の重要性、幼稚園教諭の職の魅力を発信する。
3. **オープンキャンパス等における保育展示、体験コーナーの設置 【B、C】**

オープンキャンパス等で、より幼児教育への理解を深められるよう、実際の保育室を模した保育体験コーナーを設置し、養成校生の模擬保育の見学や体験、養成校生との交流の機会を設ける。
4. **近隣地域にある協定高校への体験授業の提供 【B】**

高校生向けの体験授業や進路相談座談会を提供し、幼児教育および養成校への理解の醸成を図る。

3. 養成校生を対象としたキャリア形成支援

5. 就職懇談会での卒業生との交流機会 【D】

近隣園にて幼稚園教諭として働く卒業生を複数名招き、仕事内容について話を聞く機会を設ける。会では、幼稚園のほか、保育所や認定こども園、小学校等で働く卒業生も招き、各校種・施設における働き方の違いや幼保小連携の取り組みなど、より広い視点で子どもに関連する職をとらえ、その違いをよく理解し、個々の興味関心に応じた職の選択ができるよう、学びを深める機会とする。

6. 就職活動における適正なマッチング機会 【E】

養成校生が就職活動を実施するにあたり、適正なマッチングが図れるよう、卒業生の就職先および求人票を取りまとめたものをデータベース化し情報提供する。

7. 近隣地域幼稚園のPR機会 【F】

相模原市・町田市・八王子市にある幼稚園等が、その魅力を養成校生に対し PRする機会を設ける。本取組は、当該3市の教育委員会、自治体関連部署、私立幼稚園協会等と連携をとりながら実施する。

8. 実習園に関する適正なマッチング機会を提供 【H】

過去の実習実績に、実習後の学生へのアンケート結果を盛り込みデータベース化する。実習園と適正なマッチングを図り、保育観等のミスマッチによって生じる職や資格取得への意欲の低下を防ぐ。

5

4. 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援/その他

9. ホームカミングデーにて卒業生同士そして養成校教員と交流する機会 【I】

大学祭（11月）等において、ホームカミングデーを実施する。ホームカミングデーは、申請機関の教員・学生・保育者が学び合う機会を作ることを趣旨とする。第1部として保育者や有識者を招き、申請機関教員との対談形式の講演の機会を設け、より専門的な学びを提供する。また、第2部として卒業生・養成校生・教員が交流する機会を設け、悩みの共有や意欲・能力の向上を図る。

10. 近隣自治体および園と共同で「職」の魅力を伝える動画を制作 【L】

相模原市・町田市・八王子市および同3市の園等と共同で、笑顔あふれる保育の実際の姿等、保育・幼児教育の尊さを伝えることにより、幼児教育の魅力発信を行い、地域人材発掘の一助とする。動画は、様々な子どもと保育者の姿から構成され、その姿に対し養成校教員および有識者がその魅力を伝える形式をとる。近隣地域の園で行われる実際の幼児教育の姿を伝えることにより、動画を見た中高生や離職者が当該地域における豊かな保育の姿に魅力を感じてもらうことで、「職」への興味・関心と就労への意欲の向上を図る。さらに、一般の方々の幼児教育への理解の醸成を図る。

6

実施する各取組の計画・内容（04_東京家政学院大学）

5. 取組の実施状況

取 組	実施日
1. 地域の子ども向けイベントへの中高校生参加の機会提供【A、C】	7月22日
2. 併設中高での出前授業の実施【A】	9月16日
3. オープンキャンパス等における保育展示、体験コーナーの設置【B、C】	8月3日、8月6日、9月17日、11月11日
4. 近隣地域にある協定高校への体験授業の提供【B】	9月28日、10月26日、11月1日
5. 就職懇談会での卒業生との交流機会【D】	12月9日
6. 就職活動における適正なマッチング機会【E】	10月～1月
7. 近隣地域幼稚園のPR機会【F】	11月19日
8. 実習園に関する適正なマッチング機会を提供【H】	9月～1月
9. ホームカミングデーにて卒業生同士そして養成校教員と交流する機会【I】	11月11日、12月9日
10. 近隣自治体および園と共同で「職」の魅力を伝える動画を制作【L】	9月～1月

赤字：実施済

7

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（04_東京家政学院大学）

取組1. 地域の子ども向けイベントへの中高校生参加の機会提供

■ 取組のポイント

「子ども体験塾2023」（7月22日（土）実施）で、近隣地域の子ども達に対し、養成校生が中心となり、様々な体験教室を提供する。当該イベントに近隣地域の中高校生の参加者を募り、養成校生とともに子どもと触れ合う体験の機会を提供する。

■ 取組の成果

- キャンパス近隣地域の3歳から小学生の子ども120名を対象とした体験型イベントを実施し、そこに高校生の参加を募った。高校生の参加は6名であった
- 参加した高校生に実施したアンケートの感想には、「参加して将来子どもに関わる仕事をしたいと思った」、「はじめは緊張したが子ども達と沢山関わることができて一日で多くの経験ができた」、といった声があった（回答数：4名）

あなたが子ども体験塾に参加・見学した理由を教えてください。（複数回答可）	
A.子どもに興味・関心があったから	1
B.高校の先生に勧められたから	3
C.大学がどういうところか興味・関心があったから	2
D.将来、保育士は幼稚園の先生になりたいと考えているから	1
E.将来、小学校の先生になりたいと考えているから	1
G 将来、子どもに関する仕事をしたいと考えているから	2
H.子どもや生活（衣食住など）に興味があったから	2
I.東京家政学院大学に興味・関心があったから	1

子ども体験塾全体について、当てはまるものをチェックしてください。（複数回答可）	
A 大学の雰囲気伝わった	2
B 大学の学びのイメージが変わった	1
C 将来、子どもにかかわる仕事をしたいと感じた	3
D 進路選択の参考になった	4



イベントの風景

■ 取組の課題等

高校生参加のための広報活動は、主にオープンキャンパス等に参加した高校生に対し直接行っていたが、アンケート結果から、高校教員に勧められて参加した高校生が多いことが明らかとなった。当該高校は、イベント直前に本学で実施された高校教員対象大学説明会に参加しており、直接高校教員に広報を行っていた。高校生の参加者を増やすためには、高校教員への直接的な広報の必要性を感じた。

8

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（04_東京家政学院大学）

取組2．併設中高での出前授業の実施

- 取組のポイント
本学の併設中学校、高等学校にて、キャリア教育の一環として幼児教育の意義等に関する出前授業を実施し、養成校での学びや幼児教育を担う人材の質的向上の重要性、幼稚園教諭の職の魅力を発信する。
- 取組の成果
9月16日（土）に、併設高等学校の1・2年生27名に対し、大学の学びを学科紹介と体験授業により伝えた。また、併設高等学校出身の在学生3名（大学1年生1名、2年生2名）が参加し、高校生に対し実際の大学での学びについて語ったり、進路選択の悩みを高校生と共有するなど交流を図った。
- 取組の課題等
1時間半ほどのイベントであったが、自校の先輩に対する安心感からか、大学生との交流では大変盛況で、さまざまな質問が飛び交っており、時間配分への配慮が必要であった。もう少し交流時間が長ければ、より大学の学びを高校生の興味にあわせて形で細やかに伝えられたと考えられる。



出前授業の様子

取組3．オープンキャンパス等における保育展示、体験コーナーの設置

- 取組のポイント
 - ・ オープンキャンパス等で、幼児教育への理解をより深められるよう、実際の保育室を模した保育体験コーナーを設置し、学生による模擬保育の見学や体験、学生との交流の機会を設ける
 - ・ 8月3日は学科限定オープンキャンパス、8月6日と9月17日は大学オープンキャンパスにて実施した
 - ・ 8月3日の学科限定オープンキャンパス：実際の大学授業を見学する機会は、これまでのオープンキャンパスでは提供が難しかった。そこで、今回は夏休み期間に実施される幼稚園実習の事前指導の授業日に合わせて、学科オープンキャンパスを実施し、高校生が授業見学できる機会を提供した
 - ・ 8月6日と9月17日の大学オープンキャンパス：保育体験コーナーを設置し、さらにそこで大学生・卒業生と高校生が交流する機会を設けた

9

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（04_東京家政学院大学）

取組3．オープンキャンパス等における保育展示、体験コーナーの設置

- 取組の成果
 - ・ 8月3日の学科限定オープンキャンパスは、HPやSNS等による広報や、近隣に在住する高校生等にチラシを配布した結果、6組の参加があった。実施後のアンケートの感想には、「実習前の読み聞かせの授業はとても和やかでとても勉強になりました。」、「授業見学の際に、学生の方たちが、上手く手遊びを取り入れたり、絵本の持ち方を工夫したりしていて、すごく聞きやすかったので、同じようにできるようにしたいと強く感じました。」などの声があった（回答数：4）

あなたが児童学科限定オープンキャンパスに参加した理由を教えてください。（複数回答可）		児童学科限定オープンキャンパスに参加してみて、いかがでしたか？当てはまるものを選んでください。（複数回答可）	
A.子どもに興味・関心があったから	3	A 大学の雰囲気が伝わった	2
B.高校の先生に勧められたから	0	B 大学の学びのイメージが変わった	1
C.大学がどこよりも興味・関心があったから	0	C 将来、子どもにかかわる仕事をしたいと感じた	3
D.将来、保育士は幼稚園の先生になりたいと考えているから	3	D 進路選択の参考になった	2
E.将来、小学校の先生になりたいと考えているから	1		
F.将来、特別支援学校の先生になりたいと考えているから	2		
G 将来、子どもに関する仕事をしたいと考えているから	2		
H.子どもや生活（衣食住など）に興味があったから	0		
I.東京家政学院大学に興味・関心があったから	3		



8月6日の卒業生との交流風景

- ・ 8月6日と9月17日の大学オープンキャンパスに参加した卒業生からは「大学生の頃は何気ないコマの授業でも、保育の現場では何かしらに繋がってくることや子どもの成長の喜びを伝えられた。」などの声があった
- 取組の課題等
大学オープンキャンパスでは、毎回全体のイベントの流れにあわせながら、高校生が参加しやすい、在学生や卒業生と話をしやすい環境の整備により力を注がなければならない

10

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（04_東京家政学院大学）

取組 4. 近隣地域にある協定高校への体験授業の提供

■ 取組のポイント

高校生向けの体験授業や進路相談座談会を提供し、幼児教育および養成校への理解の醸成を図る。

■ 取組の成果

- 9月28日、10月26日に高大連携事業として実施される大学訪問において、本学協定校の高校生に対し、大学生による学びの紹介や体験授業を実施した
- 9月28日は川崎市立川崎高等学校1,2年生約70名が来学した。大学生による学びの紹介では、学生自作の保育・幼児教育で用いる教材を見せながら、高校生に大学の学びや保育・幼児教育の魅力についてプレゼンテーションを行った
- 10月26日は都立山崎高等学校1年生約30名が体験授業に参加した

■ 取組の課題等

- 高校の授業の一環として実施されているため、必ずしも体験授業参加者がこどもに興味を持っているとは限らない。そのような高校生に対しても、保育・幼児教育の魅力を伝えられるような工夫が必要である

取組 6. 就職活動における適正なマッチング機会

■ 取組のポイント

養成校生が就職活動を実施するにあたり、適正なマッチングが図れるよう、卒業生の就職先および求人票を取りまとめたものをデータベース化し情報提供する。

■ 取組の成果

- ここ10年程度の就職実績データと本年度求人票データを照合し、データベース作成を進めている

■ 取組の課題等

- 実習園アプリに求人データも統合し、就職ガイダンス等が始まった3年生に対し試験的に運用する

11

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（04_東京家政学院大学）

取組 7. 近隣地域幼稚園のPR機会

■ 取組のポイント

相模原市・町田市・八王子市にある幼稚園等が、その魅力を養成校生に対しPRする機会を設ける。本取組は、当該3市の教育委員会、自治体関連部署、私立幼稚園協会等と連携をとりながら実施する。

■ 取組の成果

- 11月19日（日）に東京たま未来メッセ（八王子市）にて、「保育・幼児教育：職の魅力発見フェア」を実施する
- 出展者（園）の参加費は無料で、各ブースには各園の魅力を見せるための掲示用パネルを配備する
- 9月下旬から相模原市、町田市、八王子市の市担当者に訪問し、後援申請や協力体制の構築を進めている
- また、私立幼稚園協会の園長会に参加するなど、3市の私立幼稚園協会との連携も進めている
- 対象は大学生であり、本学の学生以外にも幼稚園教諭の養成課程を持つ近隣25大学にイベント案内を送付し、広報を行った
- 10月より出展募集を開始し、10月末に決定する予定である
- 当初、3部入れ替え制を予定していたが、幼稚園協会のヒアリング内容等を考慮し、2部制とすることとした

■ 取組の課題等

現場が想像する以上に、学生は業界の勤務・待遇面の課題やネガティブな報道に対して、不安や懸念を抱いている。このようなイベントが、保育・幼児教育職に就くことへの安心感や意欲を高めることにつながり、長期的に見て業界そして園の運営にプラスとなることをご理解いただけるよう、地域の園に対して丁寧に説明をしていきたい。



12

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（04_東京家政学院大学）

取組8．実習園に関する適正なマッチング機会を提供

■ 取組のポイント

過去の実習実績に、実習後の学生へのアンケート結果を盛り込みデータベース化する。実習園と適正なマッチングを図り、保育観等のミスマッチによって生じる職や資格取得への意欲の低下を防ぐ。

■ 取組の成果

- 過去10年に学生が実習に行った園の情報を整理し、一覧にした。情報には、園名、住所のほかに、10年間の3年次実習生延べ人数、4年次実習生延べ人数、就職者延べ人数が含まれる
- この一覧を基に、Google Appsheetを用い、実習園アプリを作成した。アプリはスマートフォン対応のものであり、一覧を紙等で配布するより、学生が実習園に関する情報を見つけやすくなると考えられる
- 実習園を決定する際には、自宅からの通勤時間やこれまでの実習実績、実習日誌の形態や園の保育の特徴といった情報が参考になると想定している。アプリでは、これらの情報を簡単に見ることができることから、便利だけでなく、実習園との適正なマッチングにつながるものと期待している
- 10月10日まで、来年度の実習希望調査を大学2・3年生に実施しており、そこでこのアプリを活用してもらっている。希望調査後に、学生に対し使い勝手や追加で必要な情報などをアンケート等でヒアリングし、改善をはかる

■ 取組の課題等

アンケート回収前であるが、すでに数名の学生から意見があり、園HPのURL情報の追記などを進めている。
アンケートの結果が出れば、より詳しく学生が欲しい情報について明らかにになると考えられ、その内容を基に今後改善を図りたい。



13

7月～10月にかけて実施した各取組の進捗（04_東京家政学院大学）

取組9．ホームカミングデーにて卒業生同士そして養成校教員と交流する機会

■ 取組のポイント

ホームカミングデーは、申請機関の教員・学生及び近隣の保育者が学び合う機会を作ることを趣旨とする。第1部として保育者や有識者を招き、申請機関教員との対談形式の講演の機会を設け、より専門的な学びを提供する。また、第2部として卒業生・養成校生・教員が交流する機会を設け、悩みの共有や意欲・能力の向上を図る。

■ 取組の成果

- 11月11日（土）13時～16時に、ホームカミングデーおよび講演会「保育職の魅力」（本学客員教授 宮里暁美先生）を実施する。12月9日（土）12時30分～17時30分に、ホームカミングデーおよび講演会「森とこども」（東京ゆりかご幼稚園 園長 内野彰裕氏）を実施する
- 卒業生に対し、上記の案内を送付した

■ 取組の課題等

- ホームカミングデーでは、相談コーナーを何回かに分けて実施し、各回で「配慮が必要な子どもへの対応」「表現活動について」「保護者支援」など大学教員が現職の卒業生が抱える様々な悩みについて相談しやすいよう、工夫する予定である

取組10．近隣自治体および園と共同で「職」の魅力を伝える動画を制作

■ 取組のポイント

相模原市・町田市・八王子市および同3市の園等と共同で、笑顔あふれる保育の実際の姿等、保育・幼児教育の尊さを伝えることにより、幼児教育の魅力発信を行い、地域人材発掘の一助とする。本学生活デザイン学科准教授である呉起東氏の協力のもと、生活デザイン学科と児童学科の学生が参画し、映像を制作する。

■ 取組の成果

- 園に依頼し、撮影協力に関する了承を得た（八王子市：東京ゆりかご幼稚園、町田市：正和幼稚園、相模原市：橋本りんごこども園）
- 相模原市・町田市・八王子市に後援申請を行った

■ 取組の課題等

- 撮影のコンセプトを決定し、11月～12月で撮影を実施する予定である。子どもや保護者への撮影許可の手続きを進める

14

今後の予定（04_東京家政学院大学）

取組 3. オープンキャンパス等における保育展示、体験コーナーの設置

- 11月11日の大学オープンキャンパスは、大学祭と同時開催である。大学祭を目当てとして来場する高校生も多いことが予想されるため、これまでのイベントの流れに合わせた案内ではなく、高校生以外の訪問も想定した場づくりを進めたい。また、大学における学びをより伝えられるような展示を心掛けたい。参加者にアンケートをとることが困難なことが想定されるため、工夫してアンケートを収集できるようにしたい

取組 4. 近隣地域にある協定高校への体験授業の提供

- 11月1日に都立町田総合高等学校の生徒が来学するため、当該生徒に対して職の魅力を伝えていきたい

取組 5. 就職懇談会での卒業生との交流機会

- 12月9日に就職懇談会を実施する。幼稚園教諭の卒業生2名のほか、保育所や認定こども園、小学校等で働く卒業生も招き、各校種・施設における働き方の違いや幼保小連携の取り組みなど、より広い視点で子どもに関連する職をとらえ、その違いをよく理解し、個々の興味関心に応じた職の選択ができるよう、学びを深める機会とする
- ホームカミングデーと同時開催のため、招待する卒業生以外も顔を出して在学生と交流を持つことを期待している

取組 6. 就職活動における適正なマッチング機会

- 実習園アプリに統合する求人データの内容の精査を進める。学生に必要な情報を検討していきたい
- デモ版をこれから就職活動を開始する3年生に試験的に操作してもらい、改善点に関するアンケート調査を実施する

15

今後の予定（04_東京家政学院大学）

取組 7. 近隣地域幼稚園のPR機会

- 出展者を決定し、各園に実施の詳細に関する案内を送付する
- 無理のない動線になるようなブースの配置について検討したい
- 学生に対しては、広く呼び掛けるだけではなく、直接声をかけるなどし、イベントの趣旨を理解したうえで、多くの学生に参加してもらう工夫をする

取組 8. 実習園に関する適正なマッチング機会を提供

- 実習園アプリを使った学生へのアンケート結果を基に、追加する情報などについて検討する

取組 9. ホームカミングデーにて卒業生同士そして養成校教員と交流する機会

- ホームカミングデーの教室は、卒業生を温かく迎えられよう、また現在本学で行っている様々な活動について動画や展示等を行い、卒業生が交流しやすいような工夫をする

取組 10. 近隣自治体および園と共同で「職」の魅力を伝える動画を制作

- 撮影のコンセプトを決定し、11月～12月で撮影を実施する予定である。子どもや保護者への撮影許諾の手続きを進める
- 園の行事予定などを確認しながら、撮影に適した日を設定したい
- それぞれに地域の特色がある3園に依頼したため、子どもと保育者の魅力あふれる姿だけでなく、それぞれの地域の特徴や園の良さもその中に見えるような映像としたい

16

3.2.4.2 最終報告

04_東京家政学院大学

【地域連携を基盤とした幼児教育人材育成拠点としての養成校モデルの創出】

1

選択したテーマ（04_東京家政学院大学）

テーマ①： 中高生を対象とした職の魅力発信

- 取組A： 保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演
- 取組B： オープンキャンパスなどを活用した中高生向け模擬授業や個別相談
- 取組C： 養成校生との交流の機会の設定

テーマ②： 養成校生を対象としたキャリア形成支援

- 取組D： OB／OGなどとの交流会
- 取組E： 適切な職業紹介事業などの普及啓発
- 取組F： 周辺幼稚園等からのPR機会の設定
- 取組H： 複数園での実習の推奨

テーマ③： 現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援

- 取組I： 若手教諭に向けたホームカミングデーの実施

取組L

- 取組A～Kのほか、幼児教育の「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出す観点から、特に効果が見込まれる先導的取組

2

実施した取組（04_東京家政学院大学）

- 1 地域の子ども向けイベントへの中高生参加の機会提供
- 2 併設中高での出前授業
- 3 オープンキャンパス等における保育展示、体験コーナーの設置
- 4 近隣地域にある協定高校への体験授業
- 5 就職懇談会での卒業生との交流機会

3

実施した取組（04_東京家政学院大学）

- 6 就職活動における適正なマッチング機会
- 7 近隣地域幼稚園のPR機会
- 8 実習園に関する適正なマッチング機会
- 9 ホームカミングデーにて卒業生同士、養成校教員と交流する機会
- 10 近隣自治体および園と共同で「職」の魅力を伝える動画の制作
- 11 高校等へ配布するリーフレット・パンフレットの作成

4

4 近隣地域にある協定高校への体験授業

①-B

【実施日時】 10月26日

【取組の概要】 本学協定校の生徒が大学を訪問し、保育・幼児教育に関する体験授業に参加した

【参加者】 都立山崎高等学校 1 年生約30名

▷ポイント/成果

参加者アンケートの感想には、「自分のイメージよりも子どもはよく考えていることがわかった。」「よい学びになった。保育者になろうと思いました。」「小さい子にはあまり興味がなかったけれど、少し気になるようになりました。」「子どもが学ぶことが深くわかって、将来選択の参考にとってもなった。」などの記述があった。

▷課題

アンケート結果からは、大学の学びを知ってもらう機会としては有効であったが、将来子どもに関わる仕事をしたいという意欲の向上までは達することが難しいことが示唆された。高校からの依頼内容にもよるが、進学ではなく、キャリア形成という視点で体験授業を実施できる機会を今後増やしていきたい。

表 1 参加者アンケートより

講座を選択した理由（複数回答可）	
A. 子どもに興味・関心があったから	22
B. 講座の内容に興味があるから	10
C. 将来、保育士は幼稚園の先生になりたいと考えているから	4
D. 将来、子どもに関する仕事をしたいと考えているから	6

参加をしてみて（複数回答可）	
A. 大学の学びを知ることができた	20
B. 大学の学びのイメージが変わった	6
C. 将来、子どもにかかわる仕事をしたいと感じた	5
D. 進路選択の参考になった	11

5

5 就職懇談会での卒業生との交流機会

②-D

【実施日時】 12月9日

【取組の概要】 就職懇談会は内定者（4 年生）と卒業生を招き、下級生に対し就職活動や職の魅力を伝えるイベントである

【参加者】 本学学生 2 年生 9 名、3 年生27名



図 1 就職懇談会の様子

▷ポイント/成果

4 年生からは、幼稚園・保育所およびその他児童福祉施設、小学校、特別支援学校、企業に内定した学生 6 名が参加し、就職活動の実態について語った。卒業生は、幼稚園・保育所およびその他児童福祉施設、小学校、特別支援学校で働く 5 名が、それぞれの職の魅力について語った。幼稚園で勤務する卒業生として、デンマークの日本人補習校で勤務する卒業生を招き、デンマーク現地と会場をオンラインでつないだ。デンマークでの今の職に至るまでの経緯や保育者としてのやりがいなどが話された。

▷課題

現場で働く卒業生は、行事等により日程的に参加が難しいことも多く、一度に多くの卒業生を招き話をしてもらう環境を作ることが難しいのが現状である。今回デンマークからのオンライン参加を取り入れたが、今後もオンライン参加を組み入れることにより、より多くの卒業生に参加してもらえるよう工夫していきたい。

6

2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果（04_東京家政学院大学）

6

8

実習園・就職活動における適正なマッチング機会

②-E,H

【実施期間】 9月～1月

【取組の概要】 実習園や就職先を選択する際に、学生自身の保育観等にあった園を選択できるよう、これまでの実績DBよりアプリを開発し、実証実験を行った

【参加者】 本学児童学科の学生

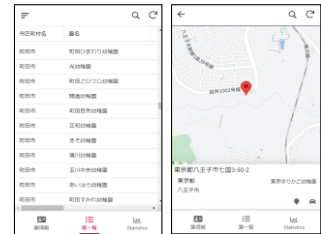


図2 アプリ画面

▷ポイント/成果

- ・ 本学では実習先を決定する際に、学生が希望園を複数挙げ、その中から実習受け入れ先を決定している。実習園希望調査においては、本学の実習実績から園の名前・住所を記載した参考園一覧を作成し、学生に実習園選択の参考になるよう配布していた。しかし、希望調査にあたっては園の情報をよく調べるよう指導しているにもかかわらず、ミスマッチによる実習や資格取得への意欲低下がみられることが課題であった
- ・ そこで、本取組では直近5年ほどの実習実績および直近数年の就職実績を基に、学生がスマートフォンで実習実績や就職実績を確認できるよう、Google Appsheetを用いてアプリを作成した
- ・ 9月に、直近10年に学生が実習に行った園の情報を整理し、一覧にした。情報には、園名のほかに、10年間の3年次実習生延べ人数、4年次実習生延べ人数、就職者延べ人数が含まれる
- ・ 10月初旬までに実施した本年度の実習希望調査（3・4年生対象）で本アプリ（試作版）を使用してもらい、使い勝手や追加してほしい情報などをアンケートでヒアリングを行った

7

2023年11月～2024年1月にかけて実施した各取組の結果（04_東京家政学院大学）

6

8

実習園・就職活動における適正なマッチング機会

②-E,H

- ・ アンケート結果からは、追加すべき情報として、「園のホームページ」「園の保育内容や特徴」が多かった。また、日誌等の実習情報も約半数が希望していた
- ・ 試作版アンケート結果を基に、ホームページや最寄り駅情報、直近5年の実習の振り返り資料から学生が記述した園の特徴や実習に関する情報を追加した
- ・ さらに、本年度の求人情報を整理し、求人情報に就職実績を追加した一覧をアプリに実装した
- ・ 1月に改良版アプリに関するアンケートを実施した（対象：本学児童学科の1年生～4年生）
- ・ アンケート結果からは、実習に関する良かった情報として「園の特徴（先輩のコメント）」「実習情報（先輩のコメント）」が多く、求人情報に関しては「採用情報」「勤務時間等」が多かった。自由記述では「先輩のコメントがあると安心材料になる」との記述があった

▷課題

「先輩からの情報」が大きな判断材料として機能する可能性が示唆された。一方で、学生の実習園に対する思いは、非常に個人的な場合も多く、どの程度それらの情報を取り入れるべきかは、注意して判断する必要がある。

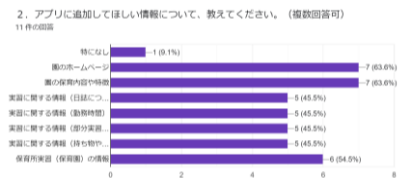


図3 試作版アプリに関するアンケート結果

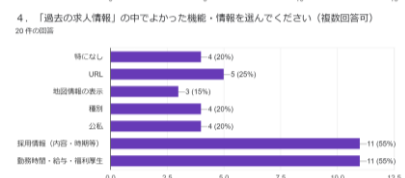
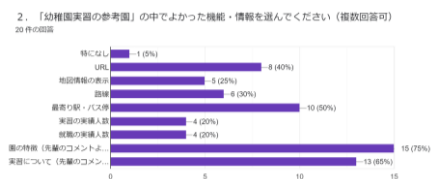


図4 改良版アプリに関するアンケート結果

8

【実施日時】11月19日（日）

東京たま未来メッセ（八王子市）

【取組の概要】八王子市・町田市・相模原市の幼稚園と

学生のマッチングを図る機会として実施した

【参加者】3市より16園、学生28名



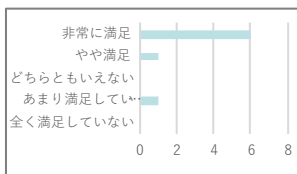
図5 会場の様子

ポイント/成果

- 一般的な就職に向けた説明会とは異なり、学年を不問にしたためまだ就職活動を本格的に始めている3年生以下の学生も参加し、実習マッチングとしても機能した
- カジュアルな雰囲気によって、学生が過度な緊張感を持つことなく積極的に参加できた

課題

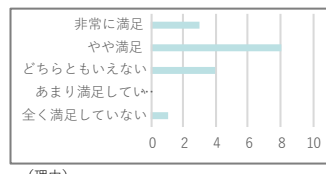
より就職や実習園選択に向けて実施するのであれば、時期は夏頃が望ましい。



(理由)

- 色々な園があって良かった
- 現場の内容を詳しく聞くことができた
- 就職したとき、周りはどんな感じか魅力や質問にも丁寧に答えてくれてよかった
- それぞれの園の特徴や仕事内容を聞くことができて良かった

図6 参加大学生アンケート結果
(回答数：8)



(理由)

- 会場も駅から近く、パーテーション等も使いやすかった
- 実習の心構えみたいな質問もあり、学生の不安が伝わってきました
- 一人一人の学生さんとじっくりお話ができたのがとてもよかったです
- 来年度は、もう少し早い時点で行っていただき、4年生も参加できる会にして頂きたいと思いました

図7 出展園アンケート結果
(回答数：16)

9

【実施日時】11月11日、12月9日

【取組の概要】講演会による専門的な学びの提供および

卒業生同士、教員との交流により、悩みの共有や意欲・能力の向上を図る

【参加者】11月11日 22名、12月9日 50名



図8 会場の様子

ポイント/成果

- 参加者のアンケートには、以下のような意見があった
「先生や卒業した先輩と仕事に関する話が出来たことが良かった。」
「他の園ではこういった事になっている、こういった対策をしているという話が聞けたので訪れてみて良かったと思っています。」
- また、今後取り上げてほしい講演会のテーマやホームカミングデーの行事として、「絵本と子どもの関わり」、「室内保育と外遊びの関係性」、「保育・教育現場の悩み相談会」などが挙げられた

課題

11月は大学祭と同時開催であったため、卒業生だけでなく在学生や高校生も交えて話をする事ができた。一方、12月は在学生の参加は多かったものの、卒業生の参加は少なかった。卒業生が参加しやすい時期や内容について検討を重ねる必要がある。

10

【実施期間】10月～1月

【取組の概要】相模原市・町田市・八王子市および同3市にある3つの園と共同で、地域の特徴を盛り込んだ幼児教育の魅力発信が可能な動画を作成し、地域人材発掘の一助とする
（映像監督：呉 起東（本学生活デザイン学科准教授））



図9 映像の一部

ポイント/成果

- ・ 本学生活デザイン学科准教授である呉 起東氏の協力のもと、生活デザイン学科と児童学科の学生が参画し、映像を制作した
- ・ 学生を交えた議論を経て、映像のコンセプトを「保育・幼児教育職へのあこがれの気持ちや成長、やりがい」に決定し、大学生、若手保育者、中堅保育者へのインタビューを中心に、子ども達と保育者の姿を織り交ぜながら、10分程度のドキュメンタリー的映像を作成した
- ・ インタビューは本学4年生2名、本学を卒業した初任者1名、若手保育者2名（うち1名が男性）、中堅保育者1名（男性）に依頼した
- ・ 完成動画を視聴した自治体担当者からは、「就職フェアなどの就職活動に関するイベント」「中高生に向けたキャリア教育」に使用できるのでないかのご意見をいただいた



図10 映像の一部

課題

今後、自治体とも調整をしながら、どのような活用ができるかを検討していきたい。
この映像の活用をきっかけに、自治体との連携強化が進むことを期待している。

11

【実施期間】8月～1月

【取組の概要】地域連携の基盤をさらに強化するため、大学がどう地域と関わりながら保育・幼児教育に関わる人材を育成しているのか、そのことが保育・幼児教育職の魅力にどのようなつながっているのかを発信する



図11 リーフレット・パンフレット

ポイント/成果

- ・ 「地域連携」をコンセプトに、大学では地域の様々な人や園・機関と関わる活動を行っていること、その活動を通して子どもについて学びを深めていることを伝える内容である
- ・ リーフレットは、地域連携を通した学びの大切さを伝える内容を主とする。主に、協定校の小・中学校ほか、近隣地域の小・中学校や自治体に配布した
- ・ パンフレットは、地域連携を通した学びに加え、近隣の園長先生からのメッセージや在学生、卒業生のメッセージを加え、より具体的に地域連携を通した大学の学びとその後の姿を理解できる内容とした。主に、協定校の高等学校ほか、近隣地域の高等学校に配布した

課題

リーフレット・パンフレット単体では、学校等で職の魅力を伝えるために効果的に使用することが難しいことが想定される。取組10の映像と併せて授業で使用するという提案や大学教員が出向いて授業を行うなど、キャリア教育の一助としてどのように活用していくか検討する必要がある。

12

1. 地域の子ども向けイベントへの中高校生参加の機会提供の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- 「子ども体験塾 2023」（7月22日実施）では、近隣地域の子ども達に対し様々な体験教室を提供した。当該イベントに近隣地域の中高校生の参加者を募り、養成校生とともに子どもと触れ合う体験の機会を提供した
- 参加した高校生からは、「参加して将来子どもに関わる仕事をしたいと思った」という声があがった。実際に子どもと触れ合う体験を高校生に提供することにより、より一層、子どもと関わる職への魅力向上に資すると考えられる。今後も年1回同様の、地域の子ども向けイベントを開催する予定であり、中高生の参加を促進させたい

②取組の課題・反省

高校生の募集について課題が残った。今回、高校生参加のための広報活動は、主にオープンキャンパス等に参加した高校生に対し直接行っていたが、アンケート結果から、高校教員に勧められて参加した高校生が多いことが明らかとなった。当該高校は、イベント直前に本学で実施された高校教員対象大学説明会に参加しており、直接高校教員に広報を行っていた。高校生の参加者を増やすためには、高校教員への直接的な広報が必要である。

③次年度以降に向けて工夫したいこと

イベントの日程が決まり次第、高校および高校生への広報活動を進めたいと考えている。本学協定校（中学校、高等学校）を中心に、オープンキャンパスに参加した高校生や高校教員対象大学説明会などで広く広報活動を進める。

13

2. 併設中高での出前授業の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- 9月16日に、併設高等学校の1・2年生27名に対し体験授業と大学生との交流会を実施した。交流会では、併設高等学校出身の在学学生3名（大学1年生1名、2年生2名）が参加し、高校生に対し実際の大学での学びについて語ったり、進路選択の悩みを高校生と共有するなど交流を図った
- 1時間半ほどのイベントであったが、自校の先輩に対する安心感からか、大学生との交流は大変盛況であり、さまざまな質問が飛び交っていた。OGとの交流会は進路選択の悩みの共有という観点で非常に有効であると感じた。大学や資格取得に対する悩みが和らぐことにより、幼児教育職への進路選択の道につながることに期待する

②取組の課題・反省

1時間半という時間的な制約の中で、十分に交流会の時間を確保することができなかった。体験授業も盛り上がったが、進路選択への影響という意味では、交流会に重きを置く方が有効と考えられる。一人のOGだけでなく、複数のOGの話を聞く機会を作るなど、十分に時間を確保することで、より良い交流の場を作れるのではないかと。

③次年度以降に向けて工夫したいこと

本年度は高校1・2年生が対象であった。同じく1・2年生を対象とする場合は、本年度同様の内容での出前授業は隔年開催が良いと考えられる。一方で、体験授業という観点では、短時間の講義ではなく、授業時間1時間分を使った体験授業を実施し、より大学の学びを実感してもらうような取組も進めていきたい。

14

3. オープンキャンパス等における保育展示、体験コーナーの設置の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- 8月3日に開催した学科限定オープンキャンパスでは、実際の大学の授業を見学してもらい、その後に大学生との交流の機会を設けた。事後アンケートには、「実習前の読み聞かせの授業はとても和やかでとても勉強になりました。」「授業見学の際に、学生の方たちが、上手く手遊びを取り入れたり、絵本の持ち方を工夫したりしていて、すごく聞きやすかったので、同じようにできるようにしたいと強く感じました。」など好評であり、従来のオープンキャンパスでは得られない体験を高校生に提供できたと感じている
- また、オープンキャンパスへの卒業生の参加は、高校生だけでなく在学生にとっても先輩方の体験を聞く良い機会となった

②取組の課題・反省

広報活動が直前になってしまう点、大学全体のオープンキャンパスとの調整に関して課題が残った。学科限定オープンキャンパスに関しては、早めに対応して広報活動を展開できたと考えている。一方、大学のオープンキャンパスに関しては、学内で連携を取りながら、オープンキャンパス全体の流れの中で本取組を位置づけることが、より効果的なものとなるかどうかの鍵になると考えている。

③次年度以降に向けて工夫したいこと

学科限定オープンキャンパスに関しては、年度初めから予定を立て広報活動に時間を取れるよう準備を進めたい。また、協力可能な卒業生に事前に連絡を取っておくなど、ネットワークづくりを進める。

15

4. 近隣地域にある協定高校への体験授業の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

協定校との連携が強化された。通常の高等学校への出前授業等では、分野が細分化されているため保育・幼児教育に興味のある生徒のみが対象となることが多かったが、協定校への授業提供では、必ずしも保育・幼児教育に興味のある生徒とは限らないため、広く職の魅力を伝えることが可能である。

②取組の課題・反省

アンケート結果からは、大学の学びを知ってもらう機会としては有効であったが、将来子どもに関わる仕事をしたいという意欲の向上まで達することは難しいことが示唆された。進学ではなく、キャリア形成という視点で体験授業を実施できれば、また違った形の評価になると考えられる。特に、協定校に関しては、高大連携の枠組みの中で、よりキャリア形成を念頭に置いた授業内容と構成が可能であると考えている。

③次年度以降に向けて工夫したいこと

進路選択（進学先選び）の一環として「大学の授業を紹介（体験）する」ための体験授業ではなく、「自分自身の将来像を形成する」ためのキャリア形成を目的とした体験授業を実施したい。その中には、単に資格取得の方法や就職後の様々な制度のような話だけでなく、子育て支援の重要性や幼児教育では何を大切にすべきかといった現代社会の課題や保育の本質、地域における保育の課題など、地域人材の育成といった側面も取り入れた内容としたい。

16

5. 就職懇談会での卒業生との交流機会の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

12月9日に実施した就職懇談会では、デンマークの日本人補習校で幼稚園教諭として勤務する卒業生を招き、デンマークの今の職に至るまでの経緯や保育者としてのやりがいなどが話された。保育・幼児教育現場で働くことが、どのようなキャリアにつながるのか、多様なキャリアの視点を提供することができた。

②取組の課題・反省

保育・幼児教育現場で働く卒業生は、行事等により日程的に参加が難しいことも多く、一度に多くの卒業生を招き話をしてもらう環境を作ることが難しいのが現状である。今回デンマークからのオンライン参加を取り入れたが、今後もオンライン参加を組み入れることにより、より多くの卒業生に参加してもらえるよう工夫していきたい。

③次年度以降に向けて工夫したいこと

前述のオンライン参加に加え、座談会形式も取り入れたい。特に、進路や資格取得に迷っている学生にとっては、個別に情報を聞くよりも、比較して情報が得られる座談会形式の方が有益かもしれない。同じ幼稚園教諭であっても園によって働き方は異なる。そのような点も就職懇談会で伝えていければと考えている。

17

6. 就職活動における適正なマッチング機会の振り返り

8. 実習園に関する適正なマッチング機会の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

本取組では、アプリ開発プラットフォームである AppSheet を使用しアプリ開発を行った。今年度の実習園選択から、アプリを使用する学生が多数見られた。また、改良後のアンケートでも沢山の要望が寄せられており、中には AppSheet の機能的な制約により実現不可能な要望もあるが、できるだけ実装を目指し改良を進めたい。

②取組の課題・反省

- ・ 就職の求人サイトとの連携が難しいことから、就職活動情報に関しては更新に課題が残る。一方で、実習園に関しては比較的更新が容易であり、今後も継続して新しい情報を取り入れながら活用できる目処が立っている
- ・ 長期にわたる運営への懸念事項として、AppSheet の機能変更に対する対応がある。本事業中も有料の機能が変更される等、機能の追加・変更が頻繁に生じている。それらの変更にあわせながらアプリを運用する必要があり、長期間の運営という観点で体制の構築など課題が残る

③次年度以降に向けて工夫したいこと

アプリに関しては、幼稚園実習先および保育所実習先の園選択に役立つ情報を追加するよう、更新する予定である。また、本取組ではアプリの活用方法などを学生に説明する時間が十分確保することができなかった。それゆえの要望と思われる内容もアンケートに散見されることから、学生への丁寧な説明を行いたいと考えている。

18

7. 近隣地域幼稚園のPR機会の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ 就職に向けた場ではなく、より長期的な視野で人材を育成するという視点を本イベントでは打ち出せたのではないかと。実習や就職という学生にとって「評価される場」ではなく、あえて「カジュアルな場」にすることによって、学生は過度な緊張感を持つことなく、自分が抱えている不安感を伝えることができたり、積極的に振る舞うことができたのではないかと考えている
- ・ 学年を不問にしたためまだ就職活動を本格的に始めていない3年生以下の学生も参加し、実習マッチングとしても機能した

②取組の課題・反省

- ・ より就職や実習園選択に向けて実施するのであれば、時期は夏頃が望ましい。実際に参加園のアンケートには「もっと4年生が参加できるよう早い時期に行ってほしい」という意見もあり、開催時期に関しては慎重に検討する必要がある
- ・ 本イベントは就職のための説明会ではなかったが、その趣旨が参加園に十分に伝わっていなかった。参加要項には趣旨を記載していたが、このようなイベントに慣れていない園にとっては、趣旨が伝わり難かったと考えられる

③次年度以降に向けて工夫したいこと

参加要項に基づいた説明会を開催するなど、趣旨をご理解いただけるよう工夫したい。また、時期については夏頃をめどに検討したいが、同時期に各自治体で開催する就職イベントもあるため、時期については各自治体の要望を踏まえながら慎重に検討を重ねる必要がある。

19

9. ホームカミングデーにて卒業生同士、養成校教員と交流する機会の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

ホームカミングデーでは、本学児童学科の卒業生だけでなく、他学科を卒業し現在幼稚園や保育所で勤務する卒業生も参加した。子どもに関わる様々な職に就く卒業生が集まり、互いに情報を交換し、悩みを相談する機会を設けることは、キャリア支援の観点から非常に重要であると再確認した。今後も、本学科の卒業生だけでなく、在学生や高校生も交えて広く交流が深められるような場を積極的に提供していきたい。

②取組の課題・反省

実施時期について、本取組では大学祭に合わせた11月11日と就職懇談会に合わせた12月9日に開催したが、卒業生だけではない広い交流の場とするという観点では、大学祭と合わせた実施がよかった。一方で、在学生や卒業生からも好評であった講演会や今後より専門的な研修会を実施する場合には、大学祭は様々なイベントが重なるため適切な場とは言えず、現職者の参加しやすい別日程で開催することが有効であると考えられる。

③次年度以降に向けて工夫したいこと

講演会もしくは研修会に関しては、より多くの卒業生に参加していただくため、勤務の入りにくい日曜日に開催するなど、開催日については工夫が必要である。一方で交流する機会については、次年度以降も大学祭で開催できるとよいだろう。高校生も参加しやすいよう、「ホームカミングデー」ではなく別の名称で実施し、広く開かれた交流の場としていきたい。

20

10. 近隣自治体および園と共同で「職」の魅力を伝える動画の制作の振り返り

11. 高校等へ配布するリーフレット・パンフレットの作成の振り返り

①成果が出て今後も継続したいこと

- ・ 動画制作では、学生の意見を取り入れることによって、より当事者感のあるものになったのではないかと。インタビュー対象者を決定する際は、現在の保育・幼児教育職が抱える課題を踏まえ、若手保育者や男性保育者に焦点を当てた。地域の魅力として「自然の豊かさ」を映像として見せられるよう工夫した
- ・ リーフレットとパンフレットでは、「地域連携」をコンセプトに、地域の様々な人や園・機関と関わりながら子どもについて学びを深めることの大切さを伝える内容になるよう工夫した

②取組の課題・反省

- ・ 完成動画を視聴した自治体担当者からは、「就職フェアなどの就職活動に関するイベント」「中高生に向けたキャリア教育」に使用できるのではないかとご意見をいただいているが、具体的にどのように使用できる可能性があるのかという点に関しては、十分に検討ができていない
- ・ リーフレット・パンフレット単体では、学校の授業等で職の魅力を伝えるために効果的に使用することが難しいことが想定される。そこで、本資料がキャリア教育の一助となるよう、どう活用していくか検討する必要がある

③次年度以降に向けて工夫したいこと

- ・ オープンキャンパス等で、職の魅力を伝えるために本動画を活用したいと考えている。特に、「保育者の成長や生き生きと活躍する姿」、「この地域の保育の魅力」、「男性保育者の活躍する姿」を伝えることができると考えている
- ・ 「中高生に向けたキャリア教育」への活用を提案したい。キャリア教育に関する授業プログラムとして動画とリーフレット・パンフレットを活用した授業を開発し、高大連携の枠組みで協定校に対して先行的に実施したいと考えている